

「市外転出者へのアンケート調査」  
報告書

2023年12月

## 目次

1. 調査の目的と概要.....	1
1.1. 調査の目的 .....	1
1.2. 調査対象.....	1
1.3. 実施方法.....	1
1.4. 調査期間.....	1
1.5. 報告書の見方 .....	1
2. 調査結果 .....	2
2.1. 全体集計結果 .....	2
2.2. 属性 .....	2
2.2.1. 性別 .....	2
2.2.2. 年齢 .....	3
2.3. 転出前後の状況.....	4
2.3.1. 転出先 .....	4
2.3.2. 世帯構成.....	10
2.3.3. 住居の所有形態 .....	12
2.4. 転出の動機について.....	13
2.4.1. 転出のきっかけ.....	13
(1)「就職」による転出先 .....	16
(2)「転職」による転出先.....	16
(3)「結婚」による転出先.....	17
(4)「住宅の購入」による転出先(福岡県) .....	17
2.4.2. 転出先の選定理由 .....	19
(1)転出先の選定理由.....	19
(2)転出先の検討状況.....	22
2.4.3. 転出前後の変化 .....	29
(1)転出前の職業(業種).....	29
(2)学生の転出後の職業(業種).....	30
(3)転出のきっかけが「転職」の場合の職業(業種)の変化.....	30
(4)転出前の通勤・通学時間 .....	31
(5)転出後の通勤・通学時間 .....	31
(6)世帯収入 .....	32
2.5. 北九州市への印象.....	33
2.5.1. 北九州市への印象 .....	33
2.5.2. 北九州の印象が悪いと感じる理由 .....	38

## 1. 調査の目的と概要

### 1.1. 調査の目的

本アンケート調査は、「人や企業に選ばれるまち」の実現に向けて、北九州市外への転出者の転出の背景、北九州市の印象等を把握するため実施するものである。

### 1.2. 調査対象

令和5年1月から7月までの間に北九州市から転出（国内）した18～39歳までの日本国籍を有する者

### 1.3. 実施方法

- ・調査はWEB調査（Google Form）にて実施
- ・無作為に抽出した5,000件の調査対象者に対して、アンケートURLとQRコードを記載した依頼文を送付

### 1.4. 調査期間

令和5年10月2日（月）～10月15日（日）

### 1.5. 報告書の見方

回答構成比は端数調整のため、合計が100%にならない場合がある。

## 2. 調査結果

### 2.1. 全体集計結果

本調査の全体集計結果については以下の通りである。無作為に抽出した5,000件の調査票の内、宛先不明で返送されたものが95件、回答数が1,159件であった。有効送付数は4,905件であるので、本調査の回答率は23.6%であった。

表 2-1 全体集計結果

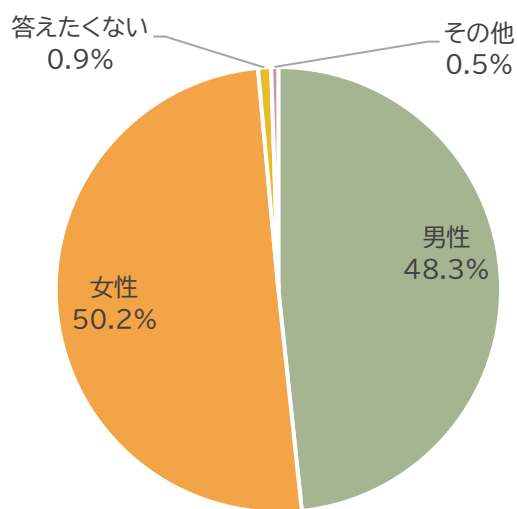
アンケート送付数	5,000
宛先不明	95
有効送付数	4,905
回答数	1,159
回答率	23.6%

### 2.2. 属性

本調査では、回答者の属性として性別（問1）と年齢（問2）を確認した。

#### 2.2.1. 性別

回答者の性別は「女性」が50.2%、「男性」が48.3%、「答えたくない」が0.9%であった。

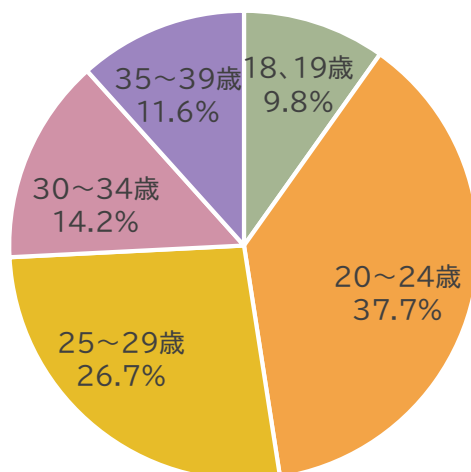


(n=1,159)

図 2-1 性別

### 2.2.2. 年齢

年齢は「20～24歳」が最も多く、37.7%であった。次いで、「25～29歳」が26.7%、「30～34歳」が14.2%であった。



(n=1,159)

図 2-2 年齢

性別年齢別の回答比率は、18、19歳では男性が6割を超えているが、その他の年代では男女の比率は概ね均衡している。

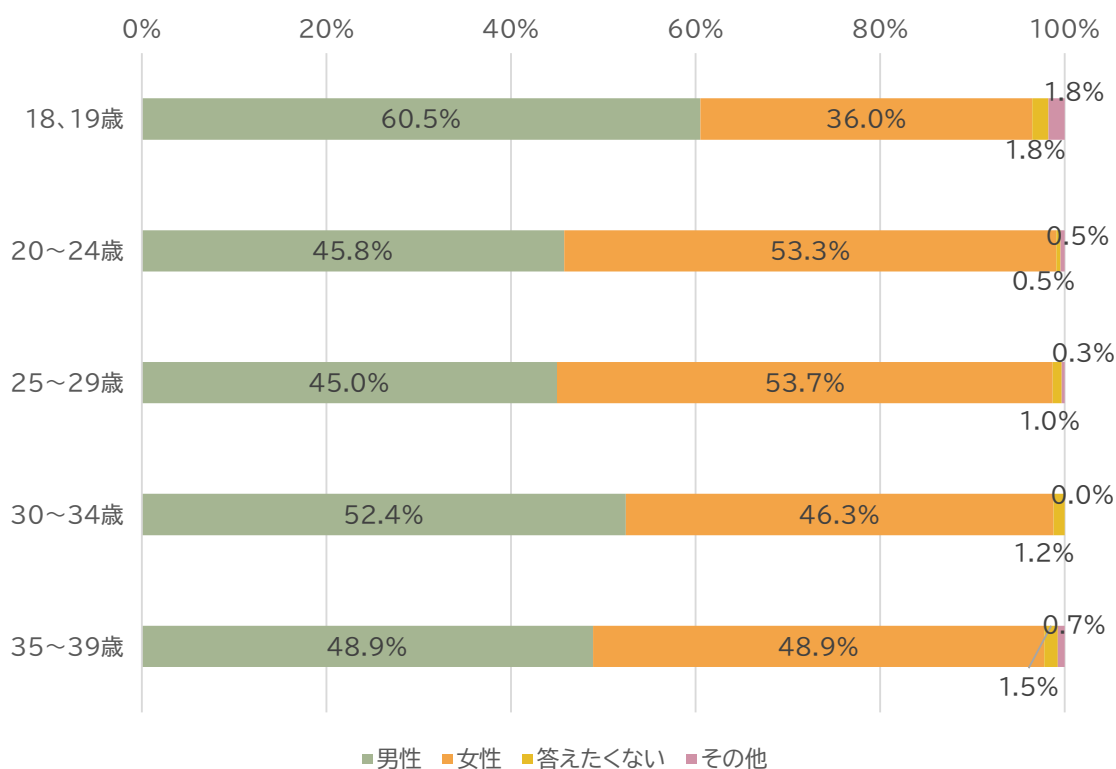


図 2-3 性別年齢別の回答比率

## 2.3. 転出前後の状況

転出前後の状況の把握のため、転出先（問3）、転出前後での世帯構成の変化（問4、問5、問6）を確認した。

### 2.3.1. 転出先

転出先は「福岡県」が最も多く、21.5%であった。次いで、「東京都」が14.1%、「大阪府」が6.8%であった。

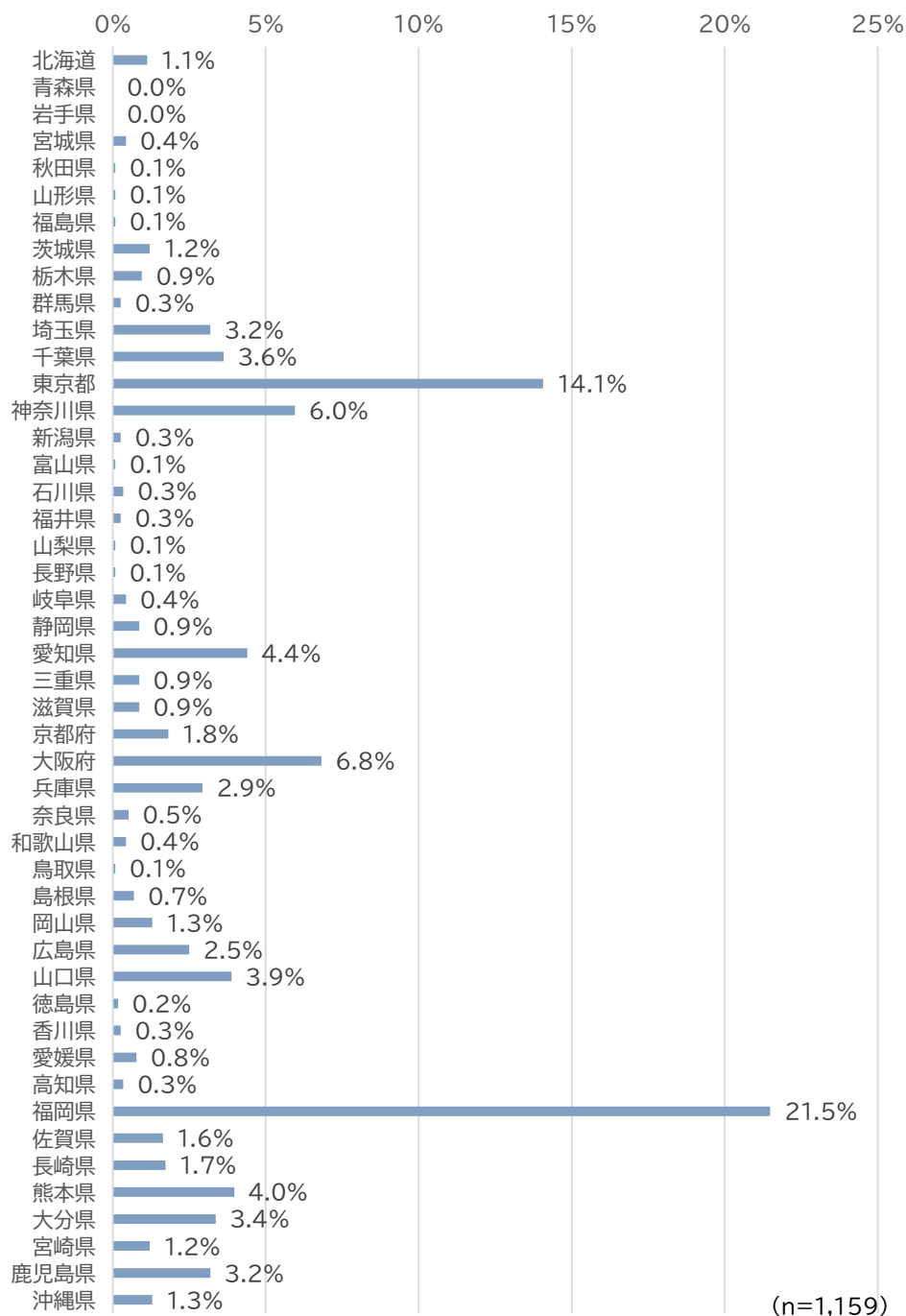


図 2-4 転出先の都道府県

このうち、回答率が2.0%以上の転出先について、男女別、年齢別の回答をみると、男女ともに「福岡県」が最も多く、次いで、「東京都」であった。

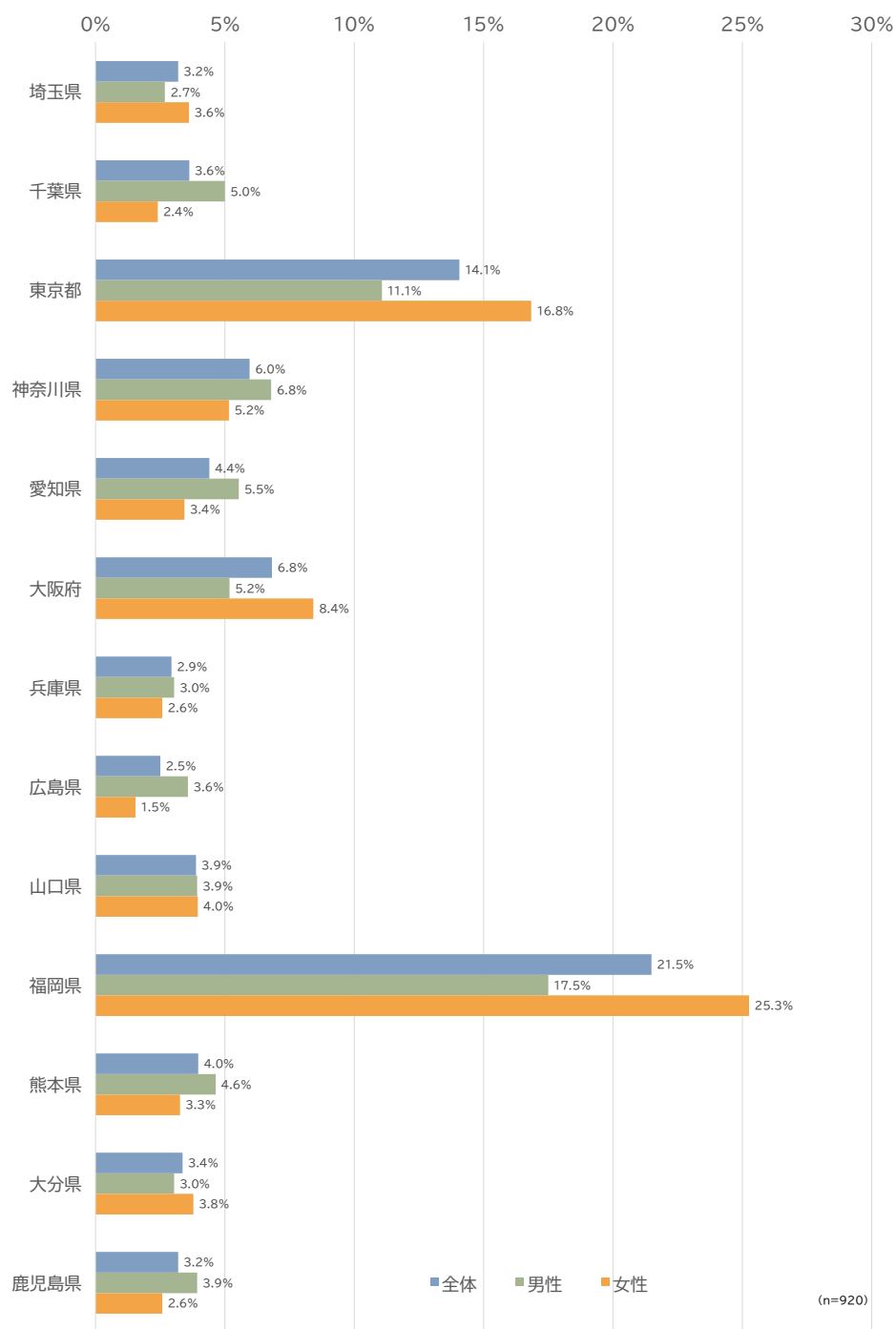


図 2-5 転出先の都道府県:男女別

年齢別では、18、19歳は「東京都」が、その他の年代では「福岡県」が最も多かった。

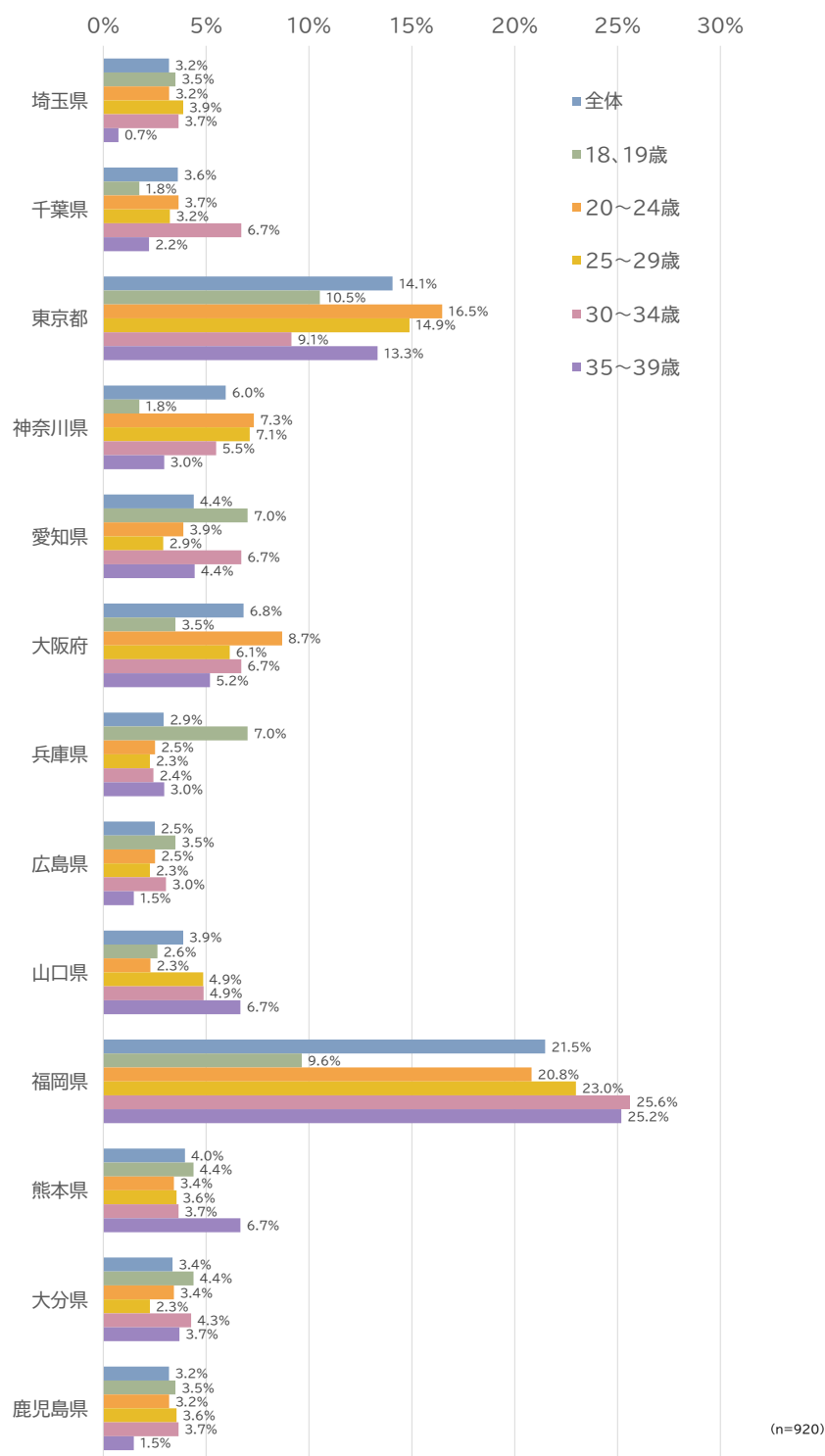


図 2-6 転出先の都道府県:年齢別



転出先で「福岡県」と回答した場合は、追加設問で福岡県のどの市町村に転出したのか確認した。転出先として最も多かったのは「福岡市」で39.8%を占めている。それ以外では、「飯塚市」、「行橋市」、「宗像市」、「福津市」が各4%程度であった。

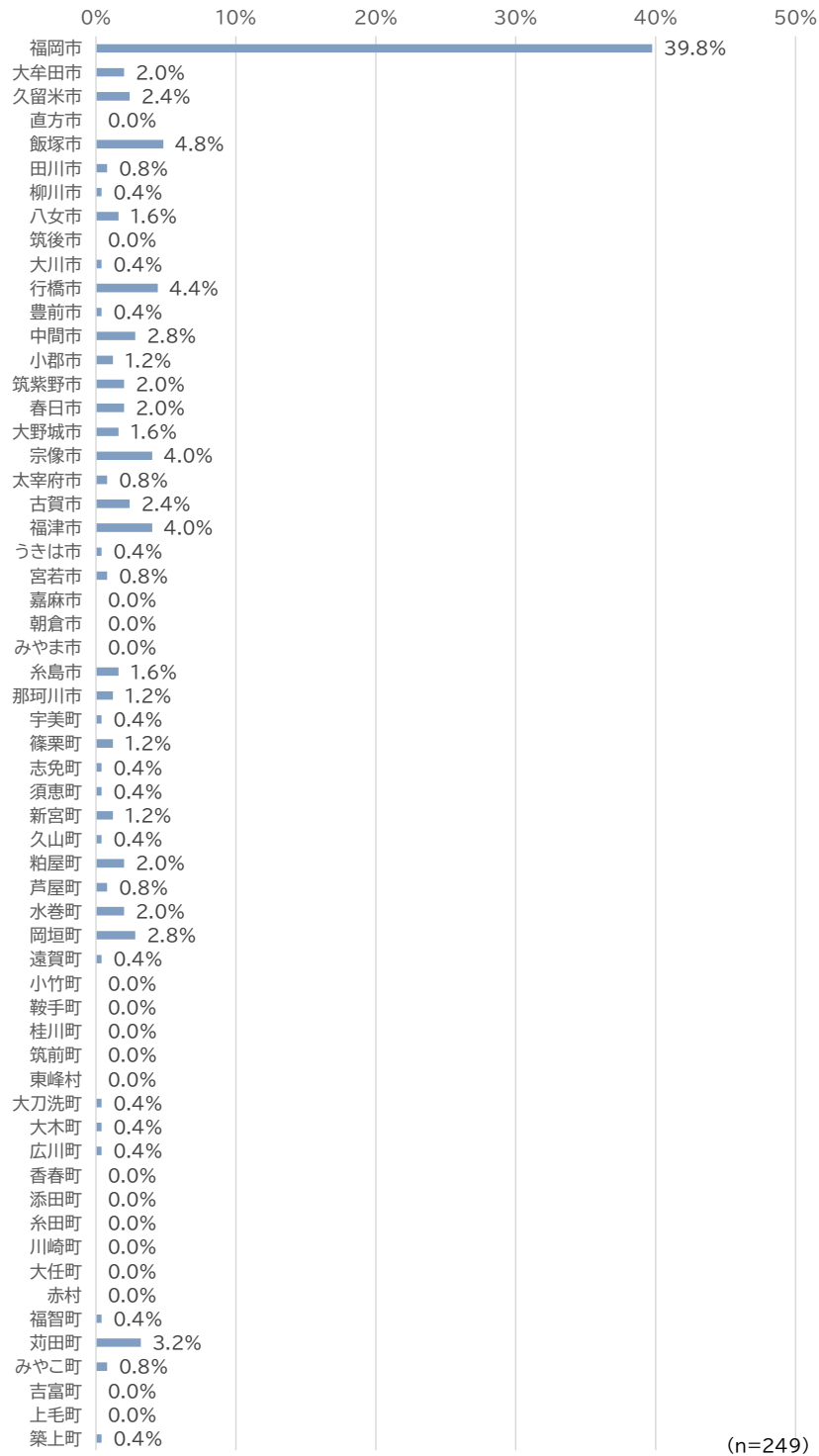


図 2-7 転出先の市町村(福岡県)

このうち、回答率が2.0%以上の転出先について、男女別、年齢別の回答をみると、男女ともに「福岡市」が最も多く、次いで、男性は「行橋市」、  
「福津市」、女性は「飯塚市」であった。

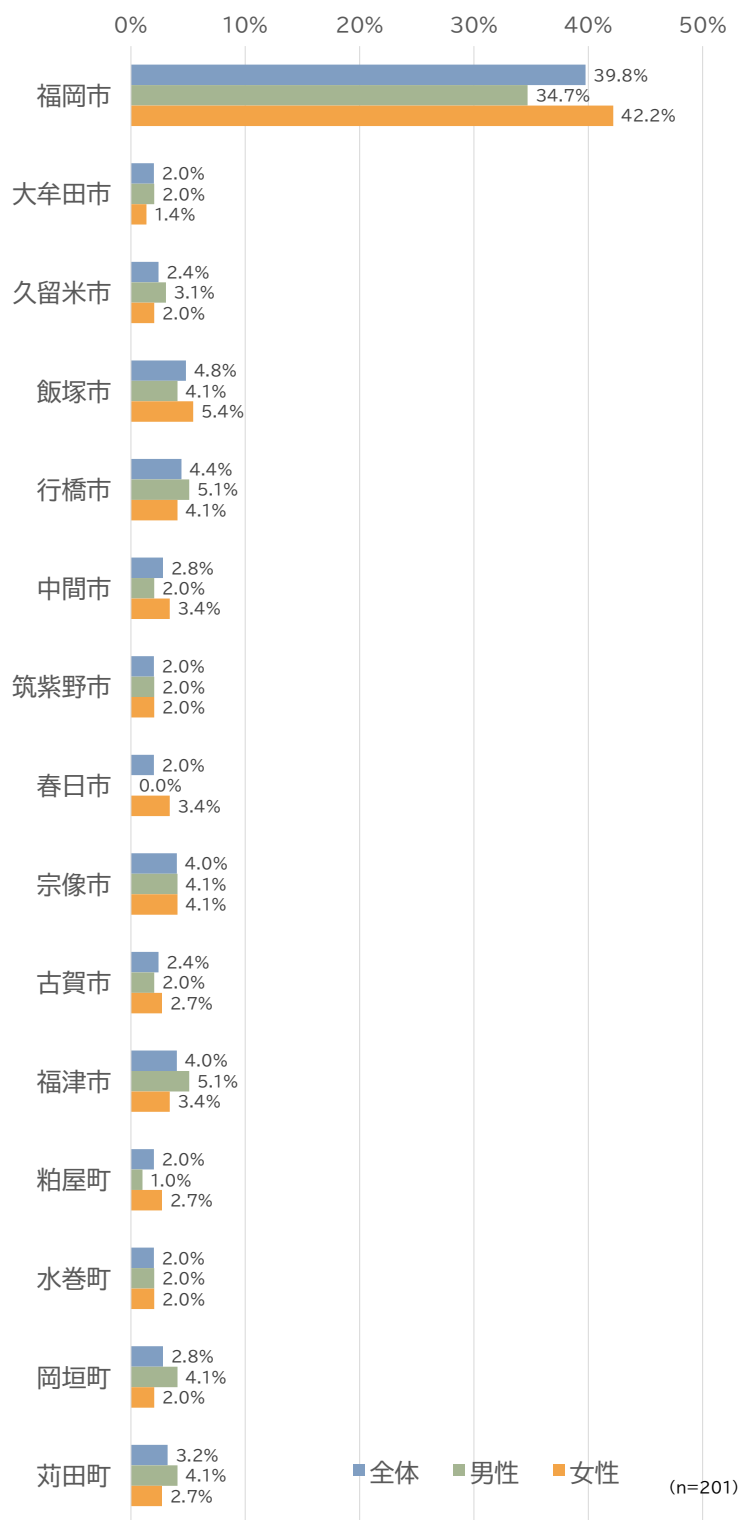


図 2-8 転出先の市町村(福岡県):男女別

年齢別では、全ての年代で「福岡市」が最も多く、次いで、18、19歳は「大牟田市」など、20～24歳は「飯塚市」、25～29歳は「宗像市」など、30～34歳は「福津市」など、35～39歳は「行橋市」などであった。

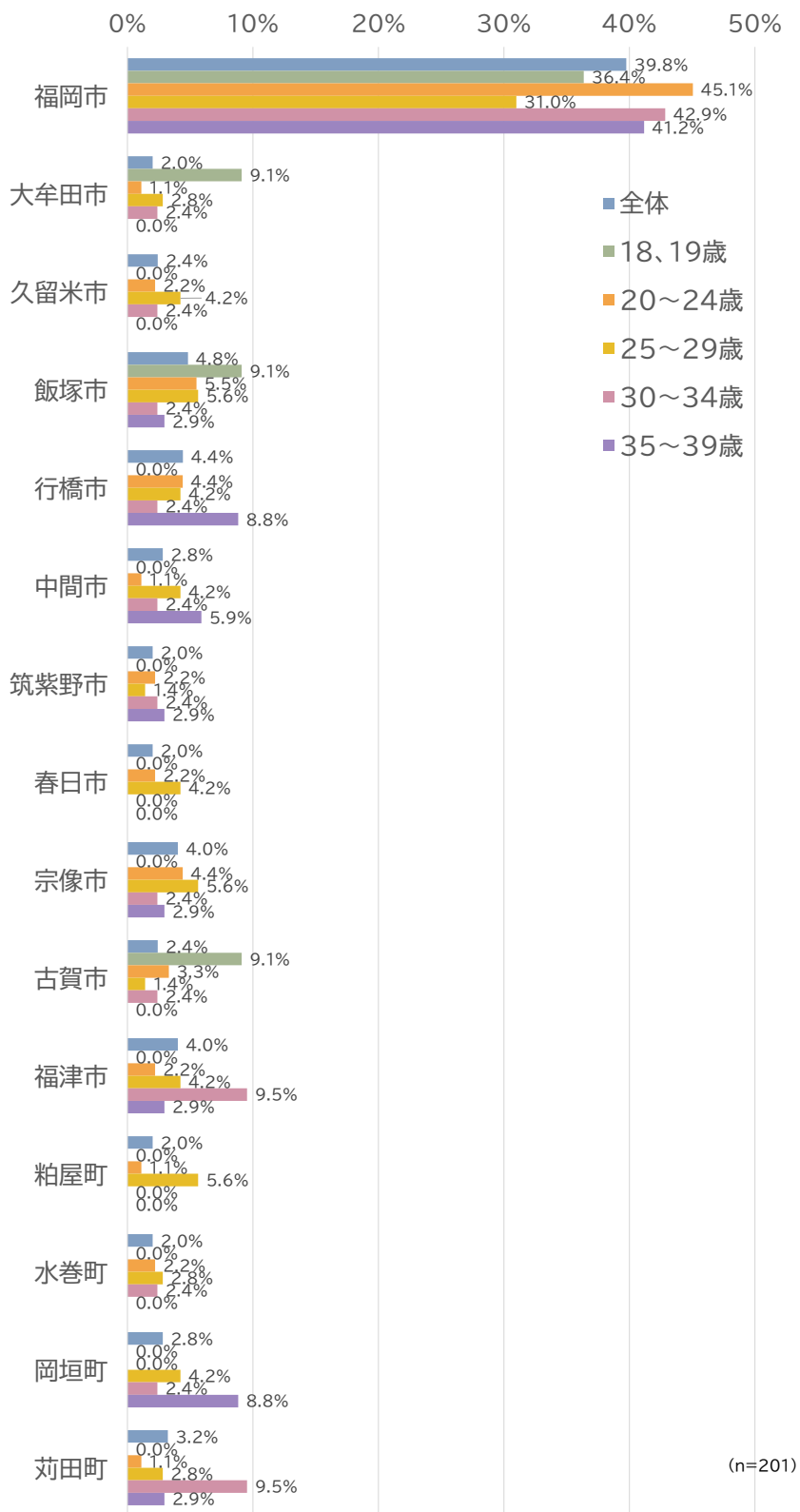


図 2-9 転出先の市町村(福岡県):年齢別

### 2.3.2. 世帯構成

転出前の世帯構成については、「親子（2世代）」が最も多く55.0%であった。次いで、「単身」が34.8%、「親・子・孫」が4.4%、「夫婦のみ」が3.9%であった。

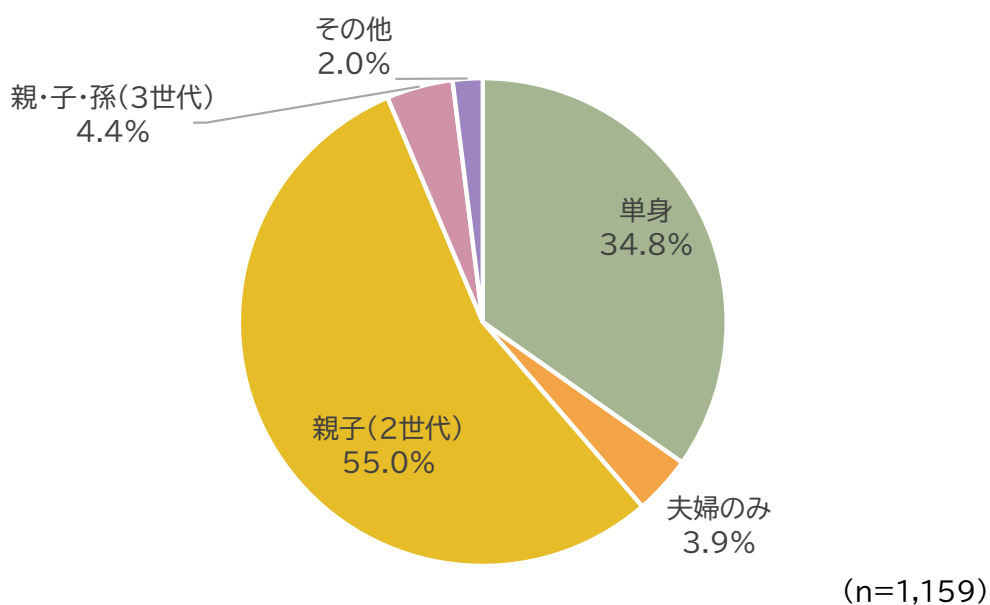


図 2-10 世帯構成(転出前)

転出後の世帯構成については、「単身」が大半を占めており、63.4%であった。次いで、「親子（2世代）」が15.1%、「夫婦のみ」が14.8%、「親・子・孫(3世代)」が1.6%であった。

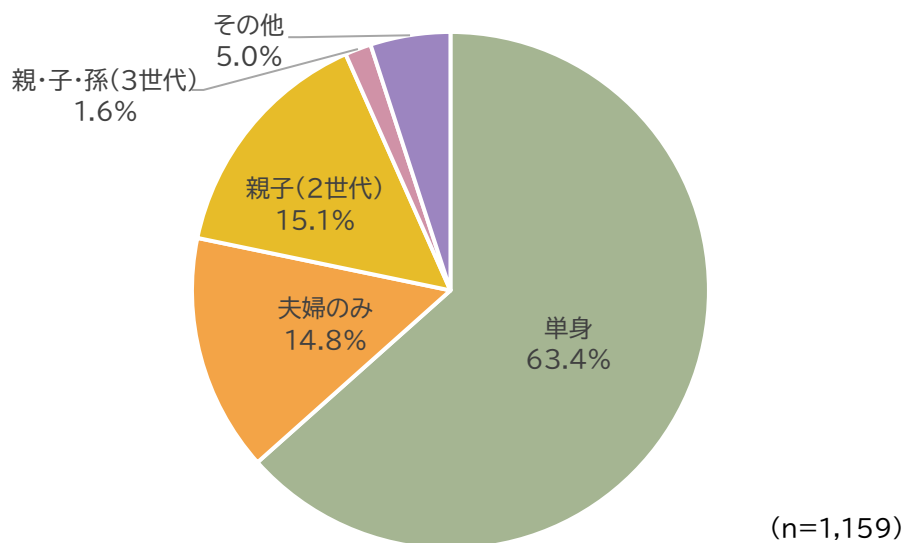


図 2-11 世帯構成(転出後)

転出後の世帯のうち、子と同居する世帯に子の就学状況について確認した結果（複数回答）、「未就学（小学校入学前）」の子がいる世帯が最も多く、111件の回答があった。

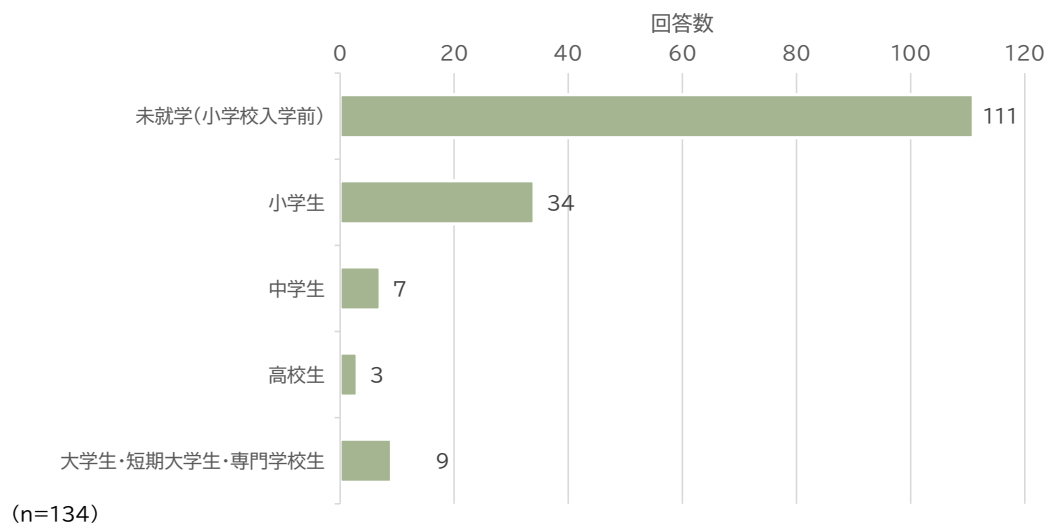


図 2-12 同居する子の就学状況(転出後)

「未就学児(小学校入学前)」の子がいる世帯の転出先をみると、「福岡県」が最も多く、27.0%であった。また、福岡県内では、「福岡市」が30.0%であった。

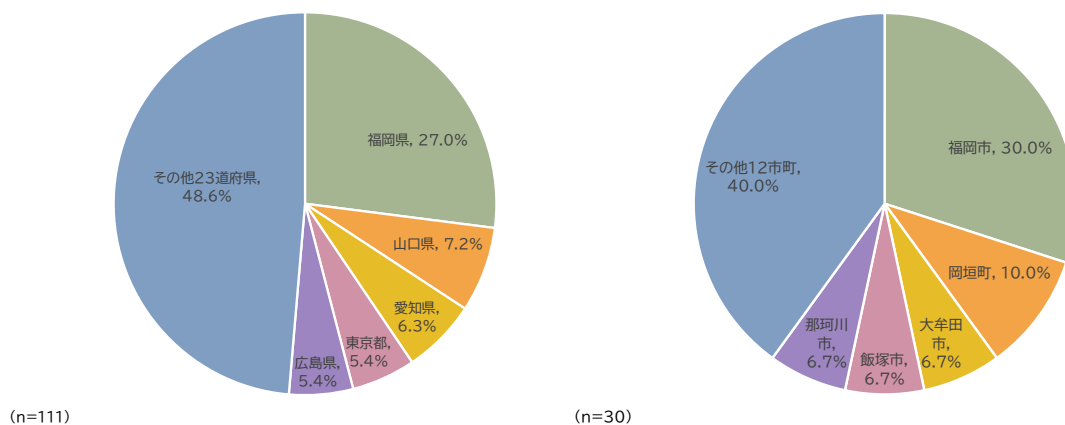


図 2-13 未就学児がいる世帯の転出先(左:都道府県、右:福岡県内)

### 2.3.3. 住居の所有形態

転出前の住居の所有形態については、「賃貸の集合住宅(マンションなど)」が最も多く、43.1%であった。次いで、「持家の一戸建て」が32.4%、「持家の集合住宅(マンションなど)」が11.9%であった。

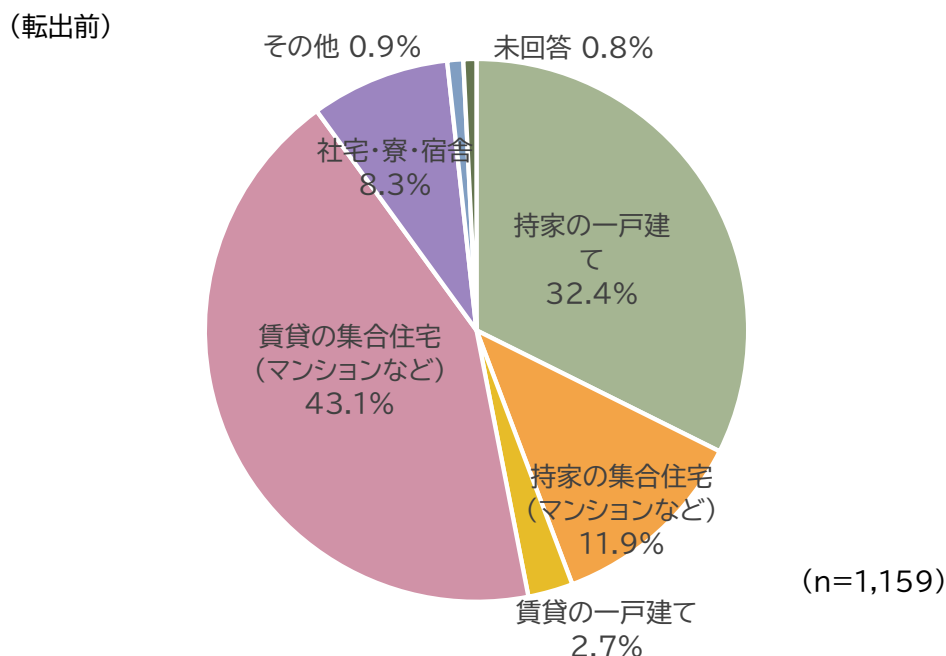


図 2-14 住居の所有形態(転出前)

転出後の住居の所有形態については、「賃貸の集合住宅(マンションなど)」が最も多く、58.9%であった。次いで、「社宅・寮・宿舍」が20.8%、「持家の一戸建て」が11.3%であった。

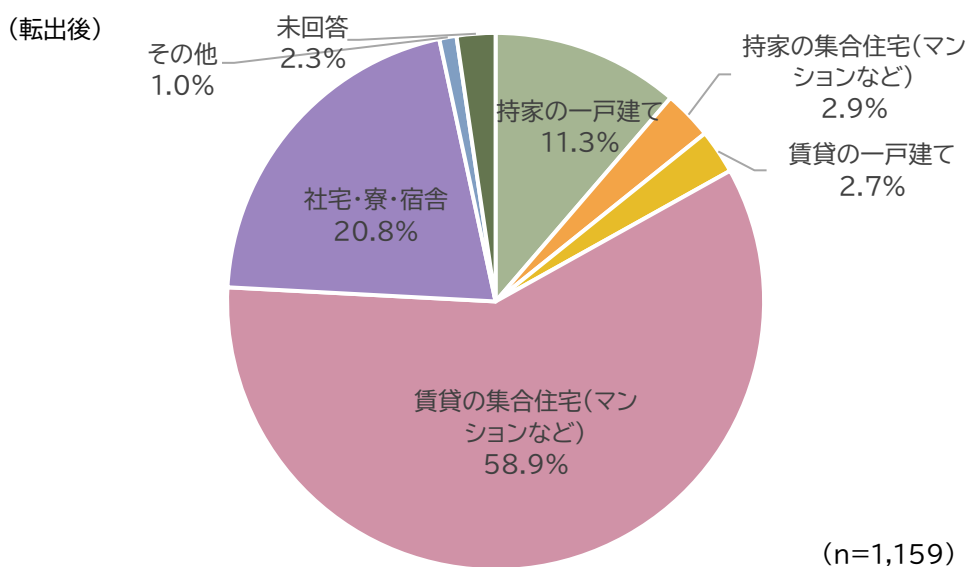


図 2-15 住居の所有形態(転出後)

## 2.4. 転出の動機について

転出の動機の把握のため、転出のきっかけ（問7）、転出先の選定理由（問8、問9）、転出前後での変化（問10、問11、問12）を確認した。

### 2.4.1. 転出のきっかけ

転出のきっかけについて、影響の大きい順に3つまで回答をしてもらい、1位、2位、3位の順に3点、2点、1点と得点をつけ評価の高い項目を確認した。結果は、「就職」、「転勤」、「結婚」が上位であった。各回答の順位ごとの比率は下図のようになった。

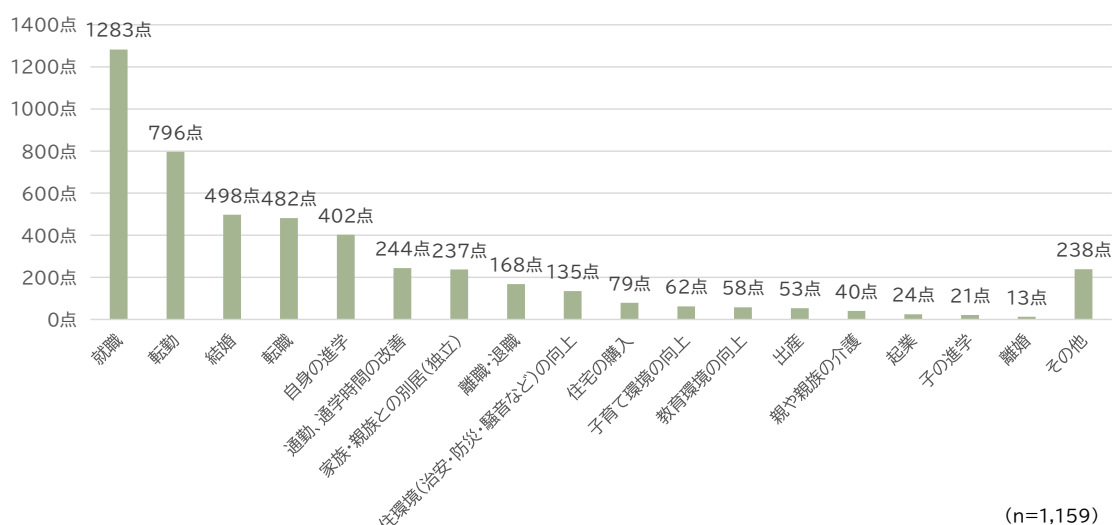


図 2-16 転出のきっかけ(総合順位)

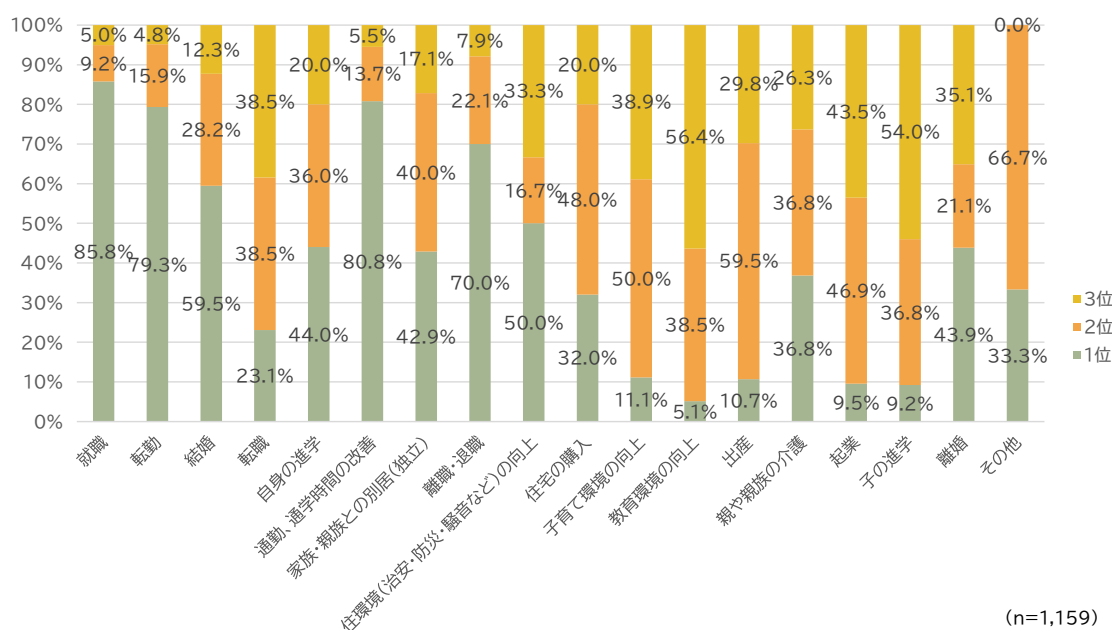


図 2-17 転出のきっかけ(各設問の順位比率)

「その他」と回答した場合には、具体的な理由を自由記述により確認した。全体で 108 件の記載があった。その他の理由では、「同棲」が 21 件と多く、次いで「卒業/進学/就職」、「家庭の事情」であった。

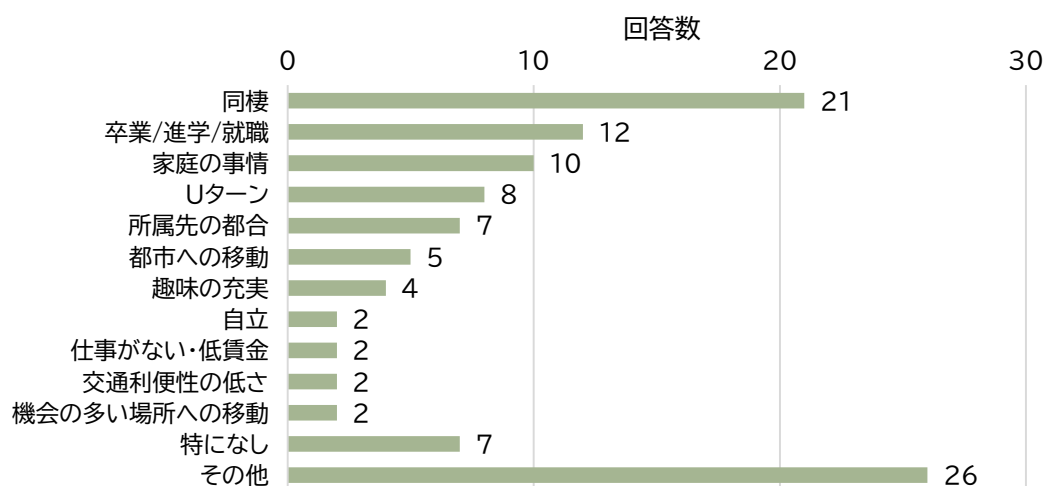


図 2-18 転出のきっかけのうち「その他」の自由記述内容

#### その他の内容

気候が苦手、人間関係の問題、住みにくかった、自然が少ない、療養、マナーが悪い、市政への不満、住民票を移していなかった 等

転出のきっかけとして 1 位と選択された項目について、男女別の内訳をみると、男女ともに「就職」が最も多く、次いで、男性は「転勤」、「自身の進学」、女性は「結婚」、「転勤」であった。

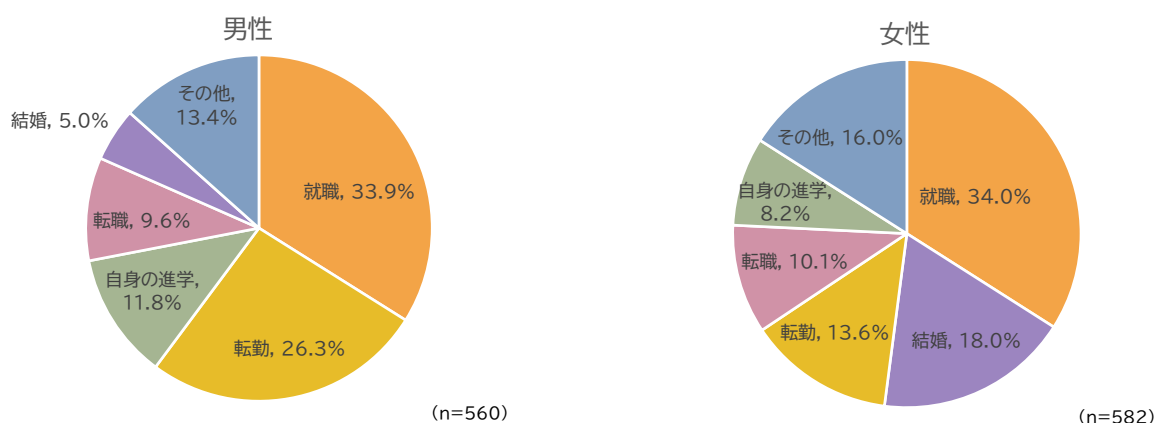


図 2-19 転出のきっかけ(男女別:1 位と選択した項目)



同様に、転出のきっかけとして1位と選択された項目について、年齢別の回答をみると、18、19歳は「自身の進学」、20～24歳は「就職」、その他の年代では「転勤」が最も多かった。次いで、18、19歳は「就職」、20～24歳は「自身の進学」、25～29歳と35～39歳は「結婚」、30～34歳は「転職」であった。

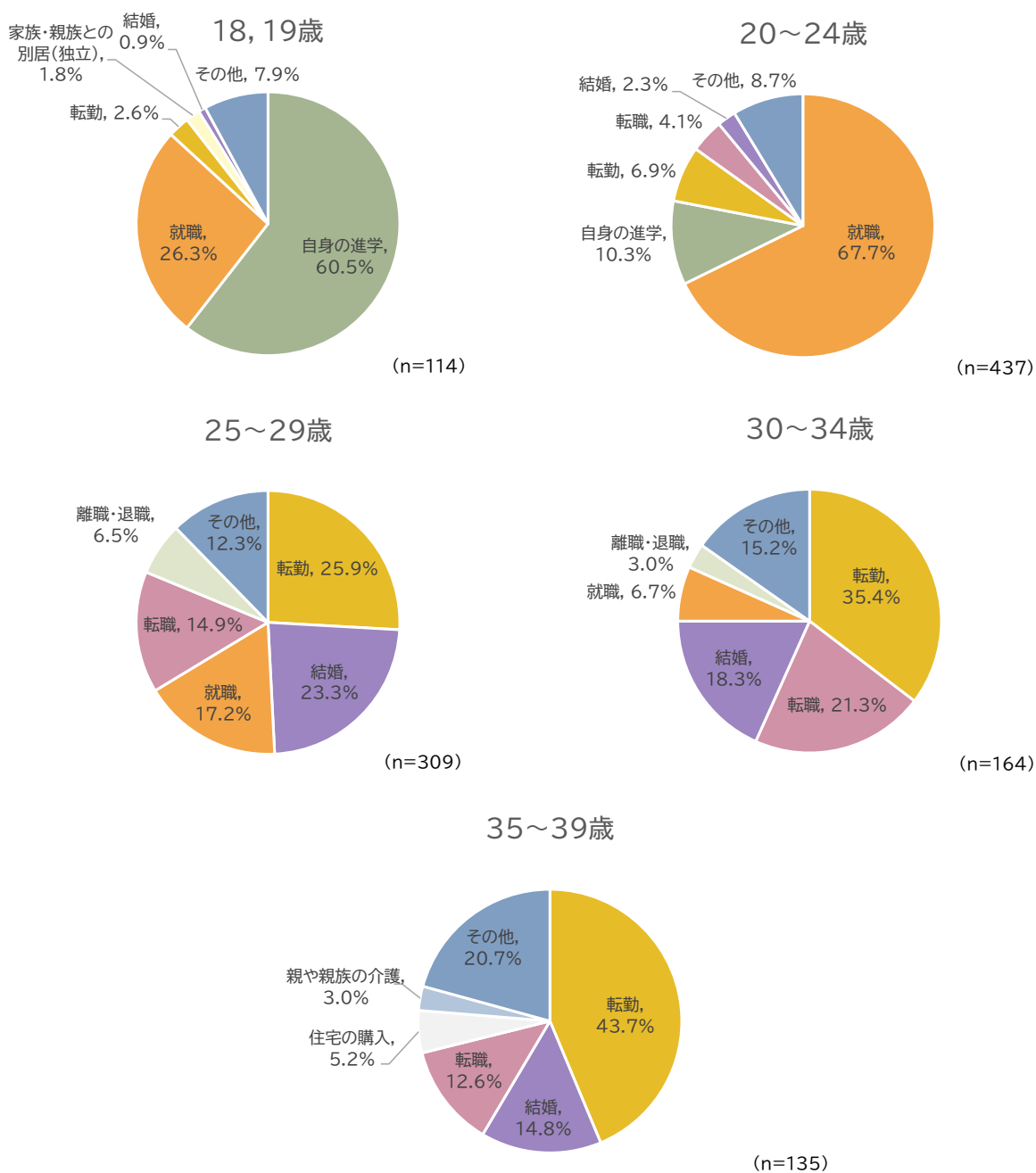


図 2-20 転出のきっかけ(年齢別:1位と選択した項目)

転出のきっかけとして1位と選択された主な項目について、転出先をみると、次のとおりであった。

(1) 「就職」による転出先

「福岡県」や「東京都」など、全体（図 2-4）の回答で上位の都府県の割合が多い。福岡県内では、「福岡市」が56.2%と過半数を占めている。

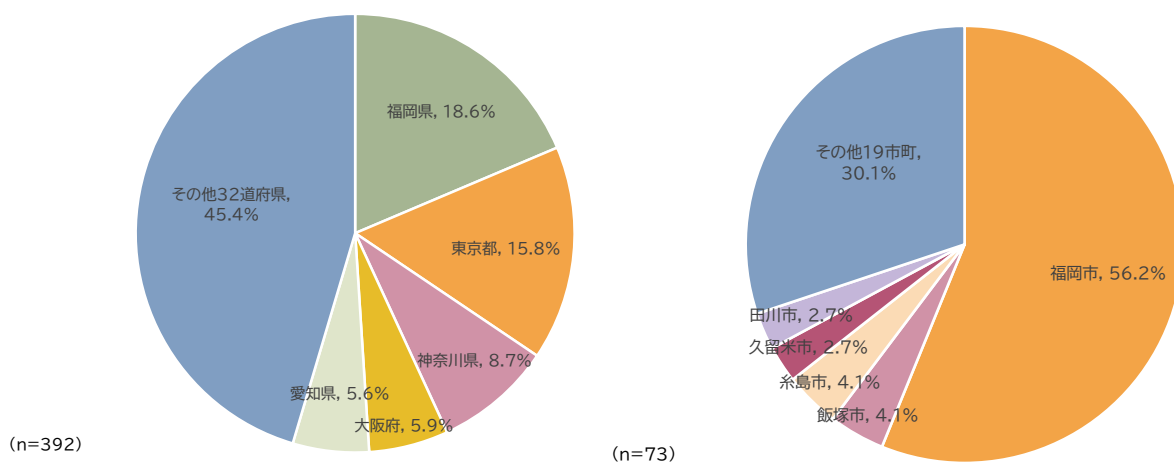


図 2-21 「就職」を1位と選択した転出先(左:都道府県、右:福岡県内)

(2) 「転職」による転出先

上記(1)と同様、「福岡県」や「東京都」など、全体（図 2-4）の回答で上位の都府県の割合が多い。福岡県内では、「福岡市」が52.2%と過半数を占めている。

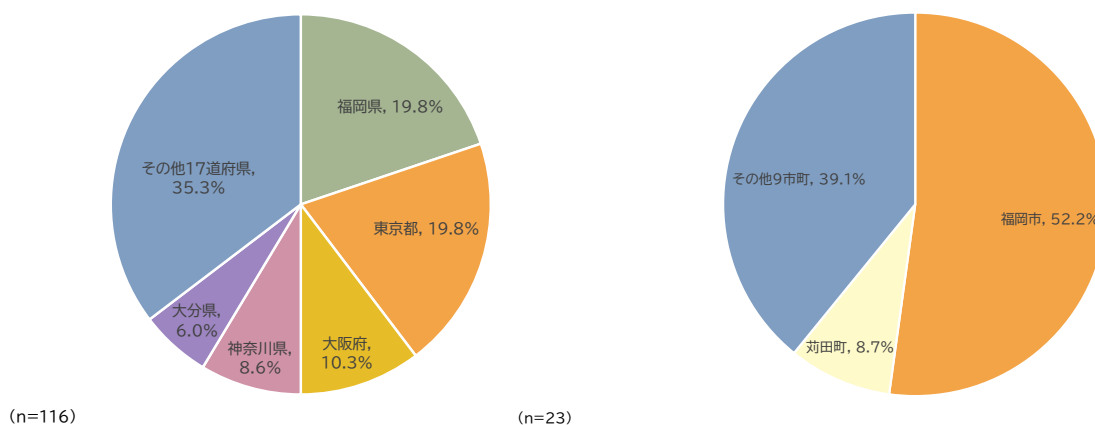


図 2-22 「転職」を1位と選択した転出先(左:都道府県、右:福岡県内)

(3) 「結婚」による転出先

「福岡県」が40.6%で最も多く、福岡県内では、「福岡市」が25.9%、次いで、「福津市」が11.1%、「行橋市」が9.3%であった。

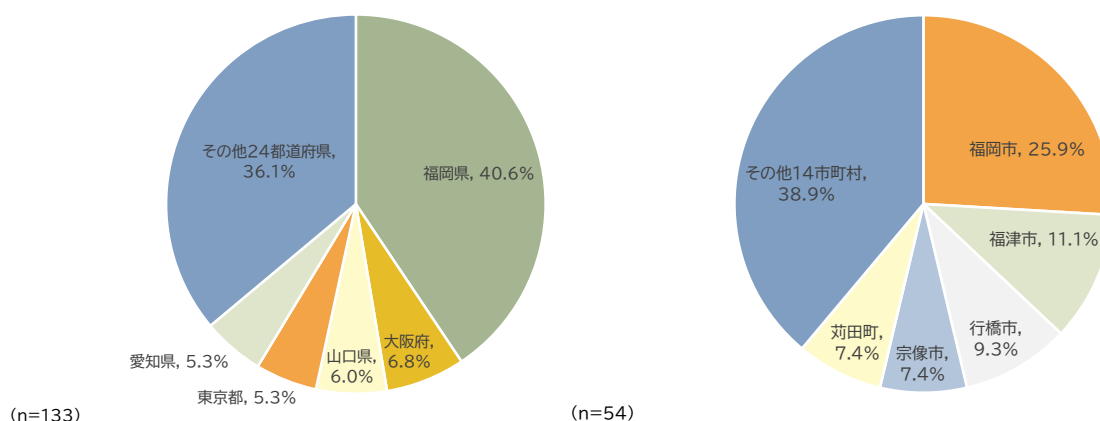


図 2-23 「結婚」を1位と選択した転出先(左:都道府県、右:福岡県内)

(4) 「住宅の購入」による転出先 (福岡県)

「岡垣町」が30.8%で最も多く、次いで、「福岡市」、「中間市」が15.4%であった。

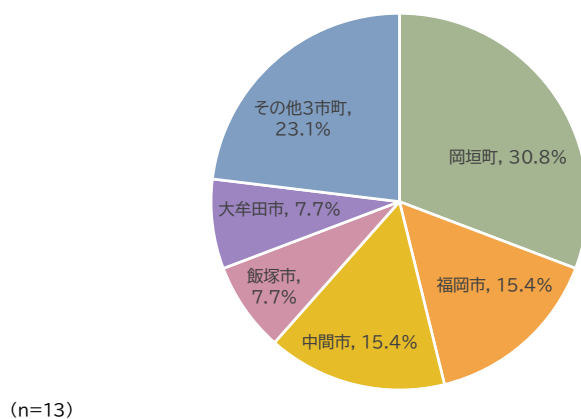


図 2-24 「住宅の購入」を1位と選択した転出先(福岡県内)

「未就学児(小学校入学前)」の子がいる世帯の転出のきっかけをみると、「転勤」が2位以下に大差をつけており、他に「転職」、「住宅の購入」、「子育て環境の向上」などが上位であった。

なお、得点の考え方は、図 2-16 と同様である。

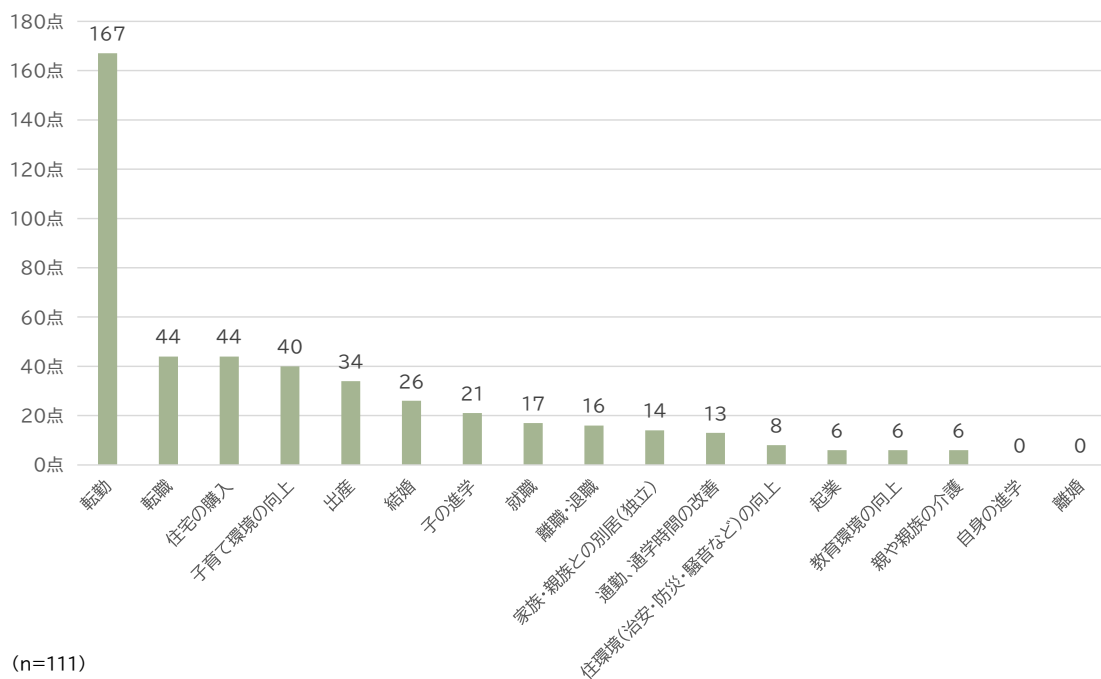


図 2-25 未就学児がいる世帯の転出のきっかけ(総合順位)

## 2.4.2. 転出先の選定理由

### (1) 転出先の選定理由

転出先の自治体の選定理由について確認したところ、「通勤・通学の交通の便が良い」ことが最も重視されており、26.6%を占めていた。その他の項目としては、「住宅が用意されていたから(社宅、家族と同居、家族の持家)」が17.6%、「配偶者が住んでいた、または親族・知人が近くに住んでいる」が15.0%であった。

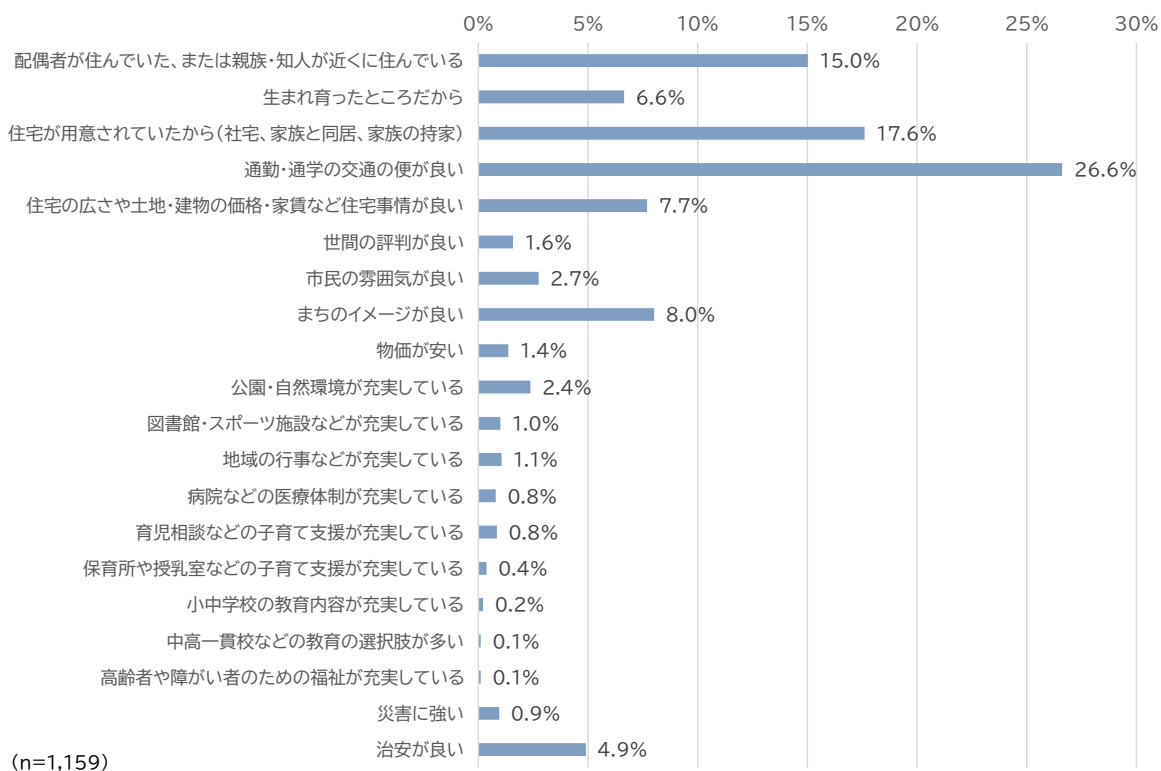


図 2-26 転出先の自治体を選んだ理由

このうち、回答率が4.9%以上の項目について、男女別、年齢別、転出先別の回答をみると、男女別では、「配偶者が住んでいた、または親族・知人が近くに住んでいる」は、男性9.5%に対して、女性は20.1%と、男女で大きな差がみられる。

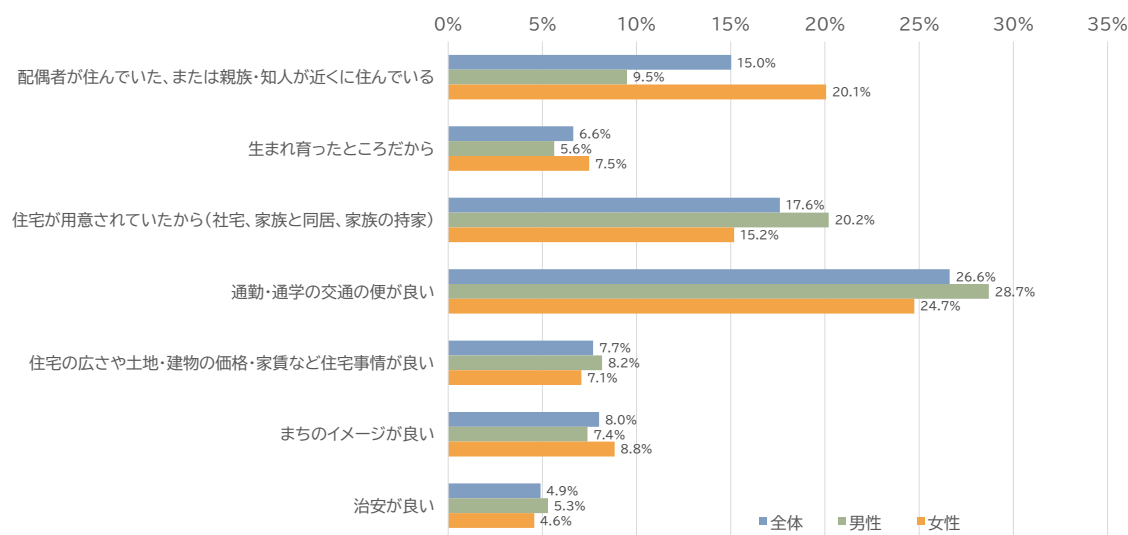


図 2-27 転出先の自治体を選んだ理由:男女別

年齢別では、全ての年代で、「通勤・通学の交通の便が良い」が最も多く、とりわけ、18、19歳と20～24歳は、その割合が多い。また、25歳以上は、「配偶者が住んでいた、または親族・知人が近くに住んでいる」の割合が多い。

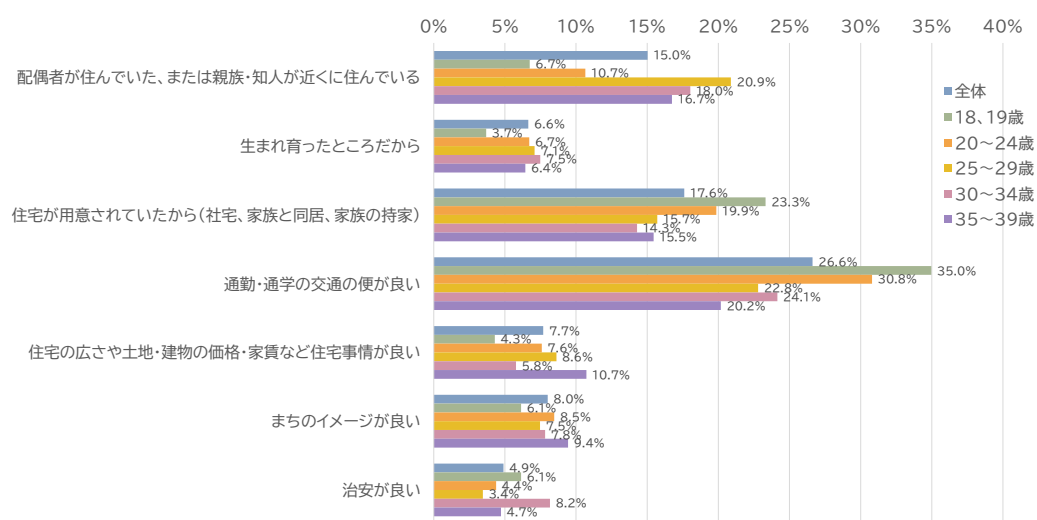


図 2-28 転出先の自治体を選んだ理由:年齢別

なお、転出先別の内訳は、次のとおりであった。

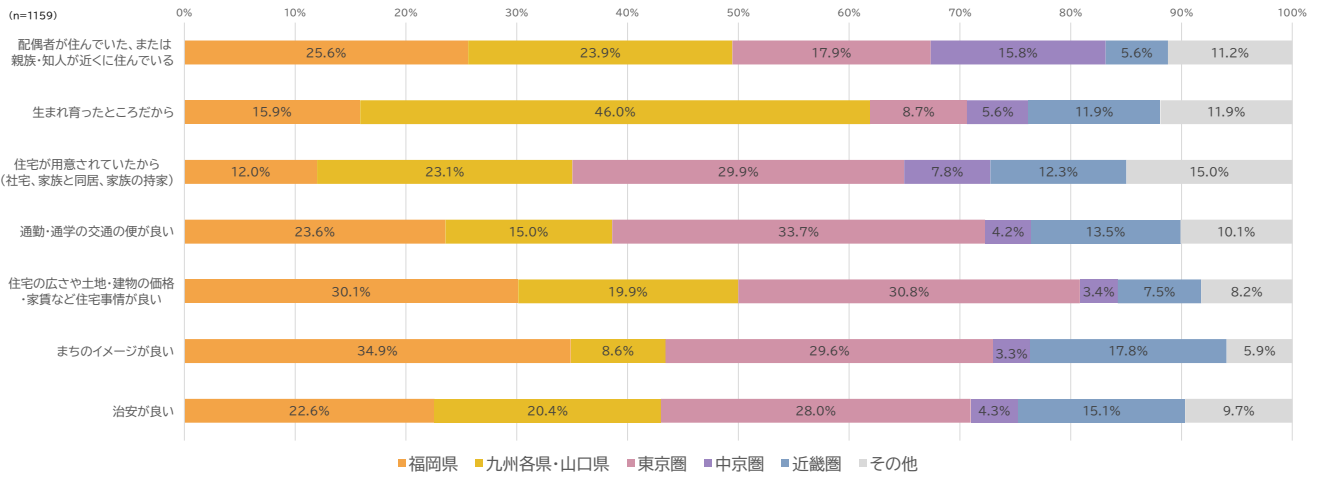


図 2-29 転出先の自治体を選んだ理由: 転出先別内訳(都道府県)

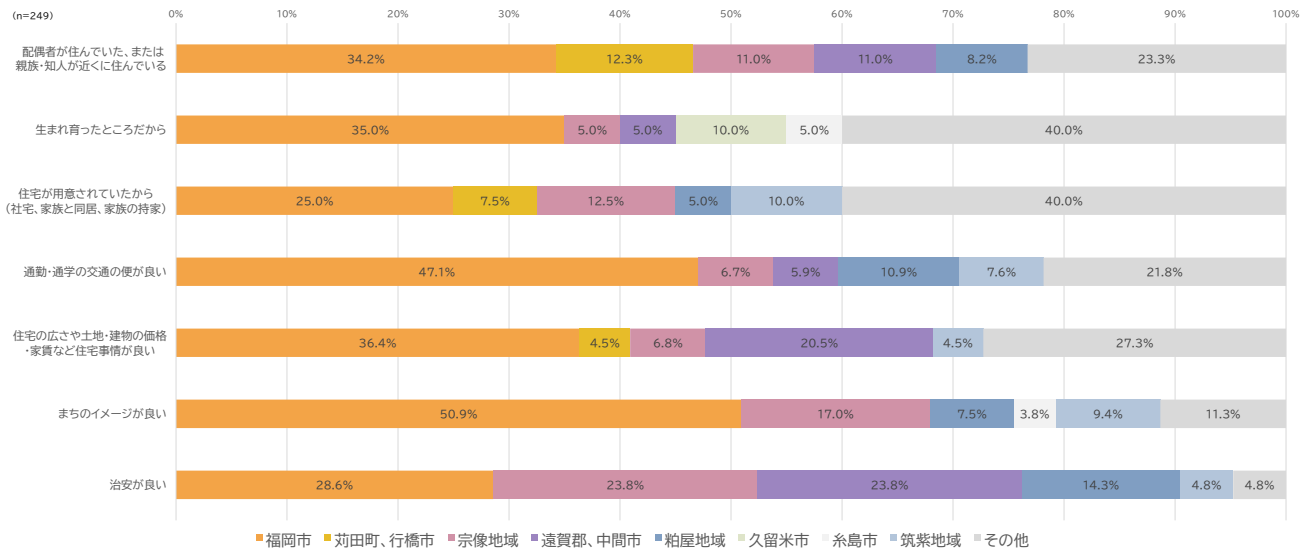
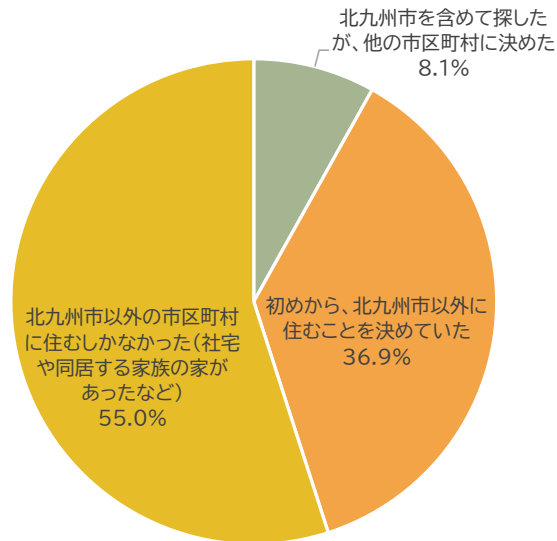


図 2-30 転出先の自治体を選んだ理由: 転出先別内訳(福岡県内)

## (2) 転出先の検討状況

また、新たな住まいを探すときの検討状況について確認したところ、「北九州市以外の市区町村に住むしかなかった（社宅や同居する家族の家があったなど）」が最も多く、55.0%であった。次いで、「初めから、北九州市以外に住むことを決めていた」が36.9%、「北九州市を含めて探したが、他の市区町村に決めた」が8.1%であった。



(n=1,159)

図 2-31 転出先の検討状況



「北九州市を含めて探したが、他の市区町村に決めた」、「初めから、北九州市以外に住むことを決めていた」の回答について、男女別、年齢別、転出先、転出のきっかけをみると、次のとおりであった。

I. 「北九州市を含めて探したが、他の市町村に決めた」の各内訳

男女別では、「男性」が53.2%、「女性」が44.7%であった。

年齢別では、「20～24歳」が最も多く、43.6%であった。次いで、「25～29歳」が22.3%であった。

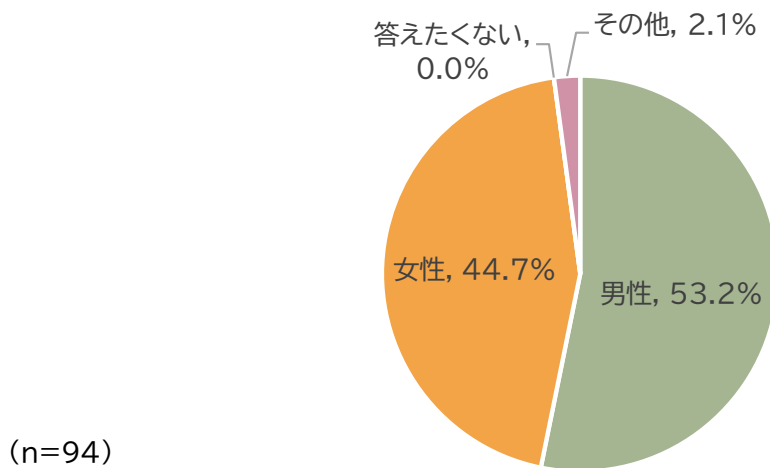


図 2-32 「北九州市を含めて探したが、他の市町村に決めた」：男女別内訳

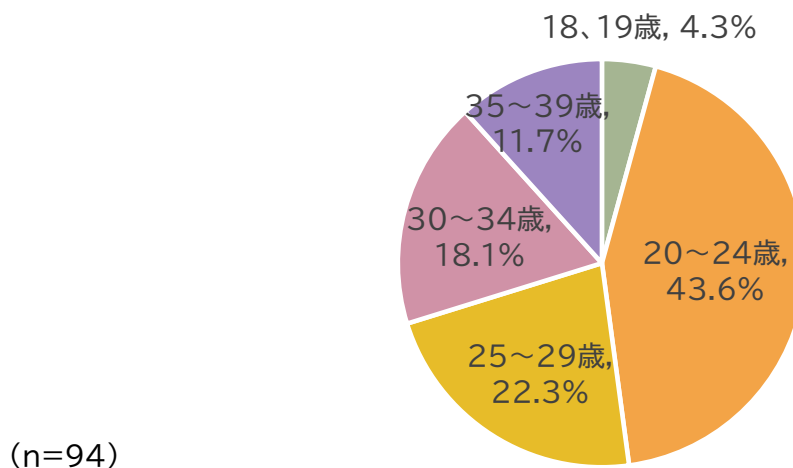


図 2-33 「北九州市を含めて探したが、他の市町村に決めた」：年齢別内訳

転出先（都道府県）では、「福岡県」が最も多く、47.9%であった。次いで、「九州各県・山口県」、「東京圏」が14.9%であった。福岡県内では、「遠賀郡・中間市」、「苅田町・行橋市」がそれぞれ24.4%と、近隣市町が約半数を占めている。

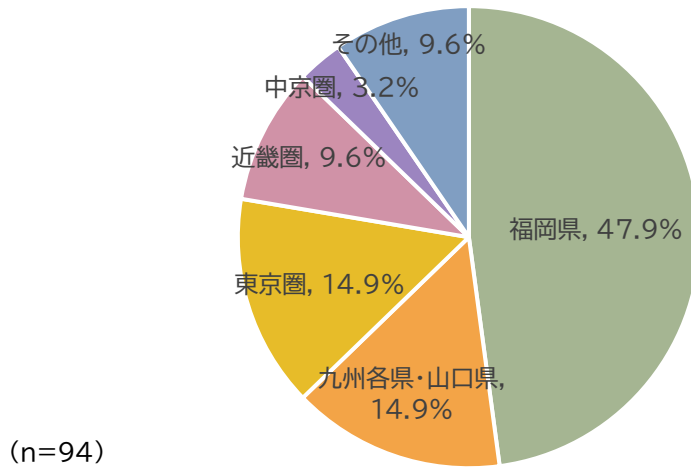


図 2-34 「北九州市を含めて探したが、他の市町村に決めた」:転出先別内訳(都道府県)

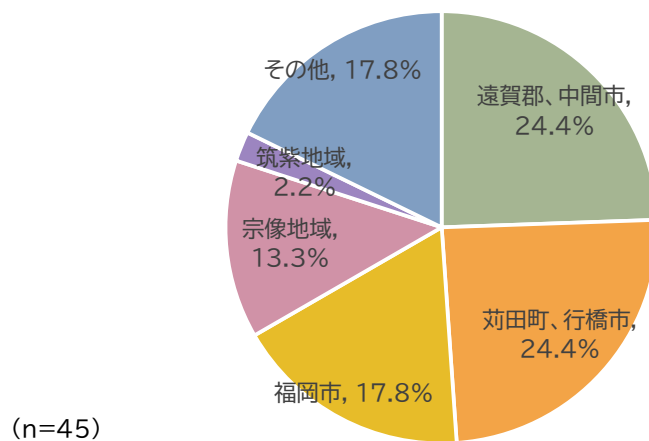


図 2-35 「北九州市を含めて探したが、他の市町村に決めた」:転出先別内訳(福岡県内)

転出のきっかけでは、「就職」が最も多く、39.8%であった。次いで、「転職」が22.6%であった。

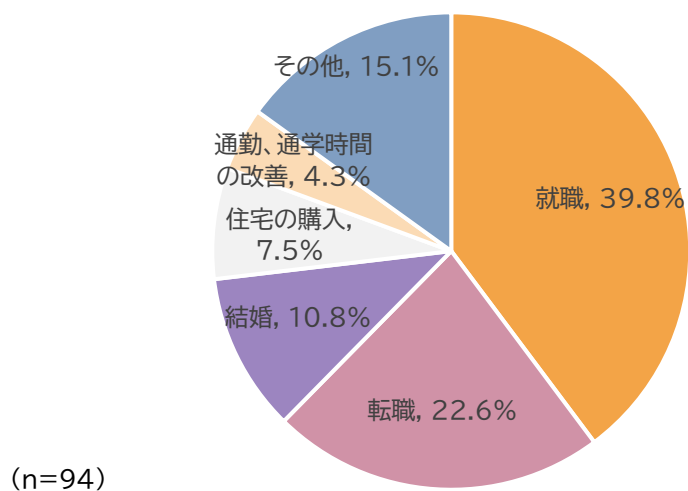


図 2-36 「北九州市を含めて探したが、他の市町村に決めた」  
:転出のきっかけ1位の割合

## II. 「初めから、北九州市以外に住むことを決めていた」の各内訳

男女別では、「男性」が45.3%、「女性」が52.1%であった。

年齢別では、「20～24歳」が最も多く、41.8%であった。次いで、「25～29歳」が25.0%であった。

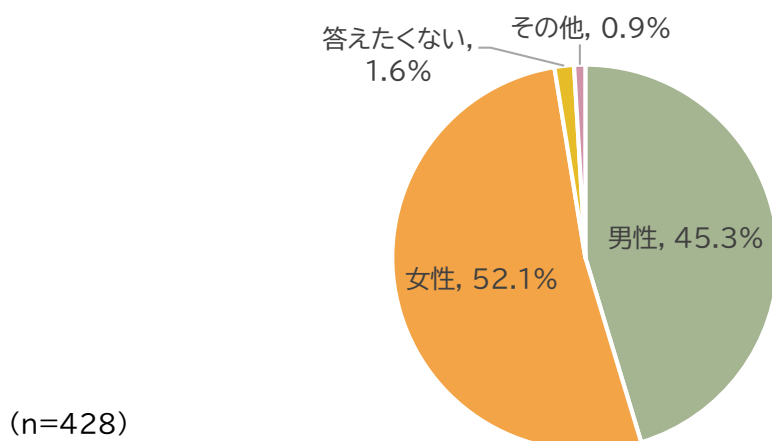


図 2-37 「初めから、北九州市以外に住むことを決めていた」:性別内訳

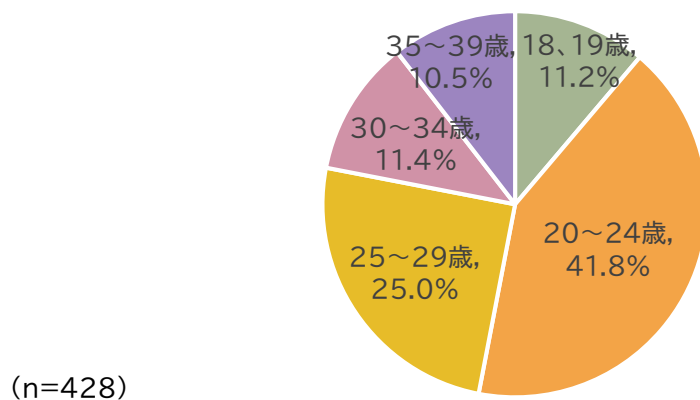


図 2-38 「初めから、北九州市以外に住むことを決めていた」:年齢別内訳

転出先（都道府県）では、「東京圏」が最も多く、29.7%であった。次いで、「福岡県」が26.2%であった。福岡県内では、「福岡市」が53.6%、「粕屋地域」が8.9%など、福岡都市圏が約8割を占めている。

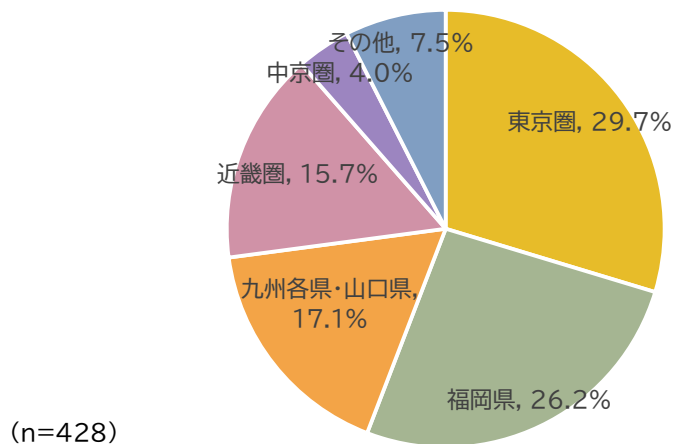


図 2-39 「初めから、北九州市以外に住むことを決めていた」:転出先別内訳(都道府県)

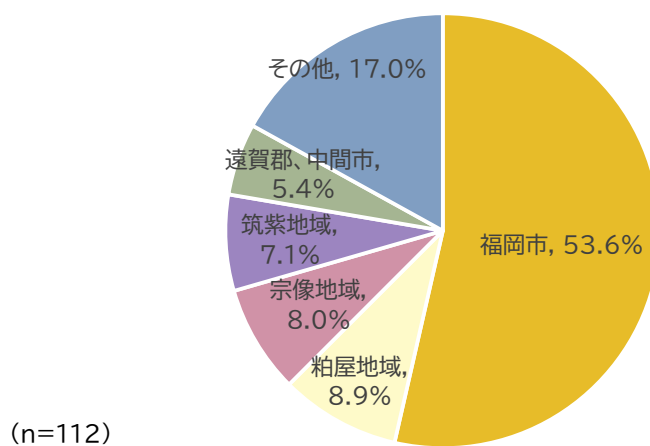
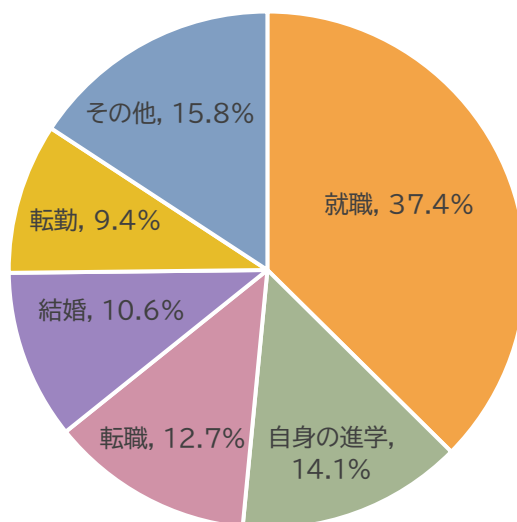


図 2-40 「初めから、北九州市以外に住むことを決めていた」:転出先別内訳(福岡県内)

転出のきっかけでは、「就職」が最も多く、37.4%であった。次いで、「自身の進学」が14.1%であった。



(n=428)

図 2-41 「初めから、北九州市以外に住むことを決めていた」  
:転出のきっかけ 1位の割合

### 2.4.3. 転出前後の変化

#### (1) 転出前の職業（業種）

転出前後での職業(業種)の変化について確認したところ、転出前で最も多かったのは「学生」で43.8%であった。次いで、「医療・福祉」が9.9%、「製造業」が8.1%であった。

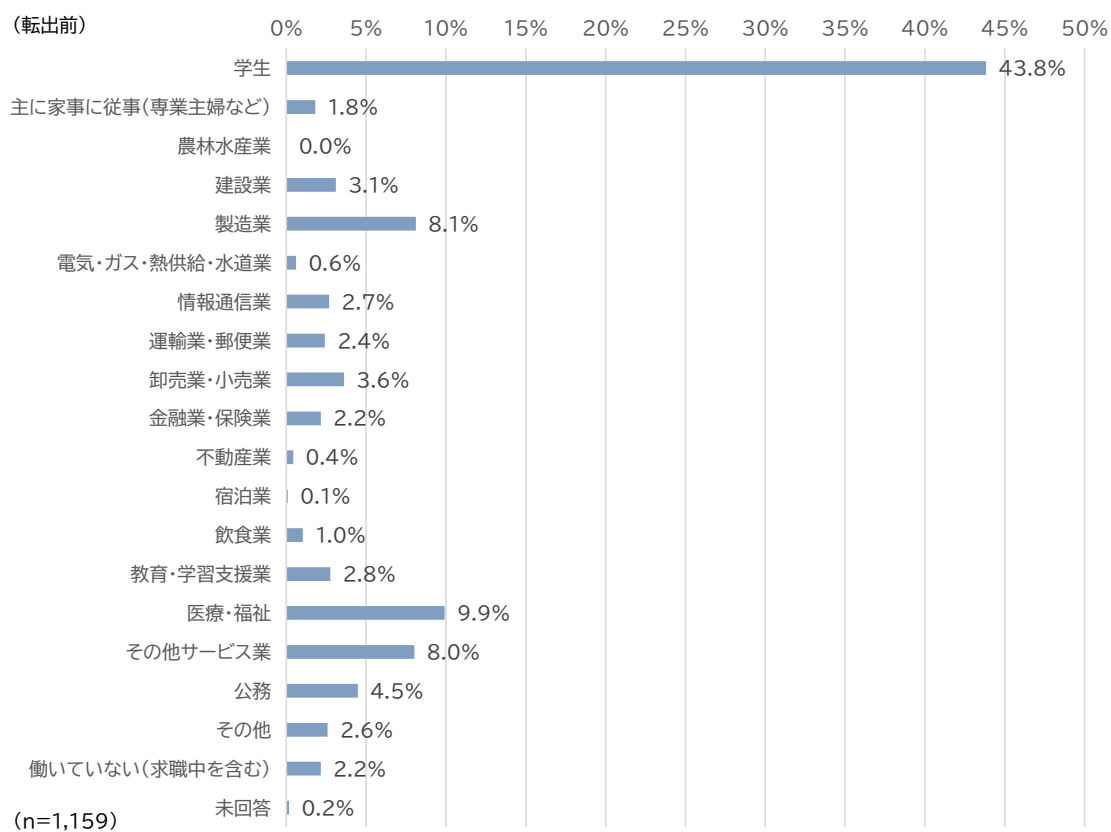


図 2-42 転出前の職種(業種)

## (2)学生の転出後の職業（業種）

転出前に学生を選択した回答者の転出後の職種（業種）は、「医療・福祉」が最も多く、18.9%であった。次いで、「製造業」が18.6%、「情報通信業」が14.0%であった。なお、転出後も「学生」と回答した数は除外している。

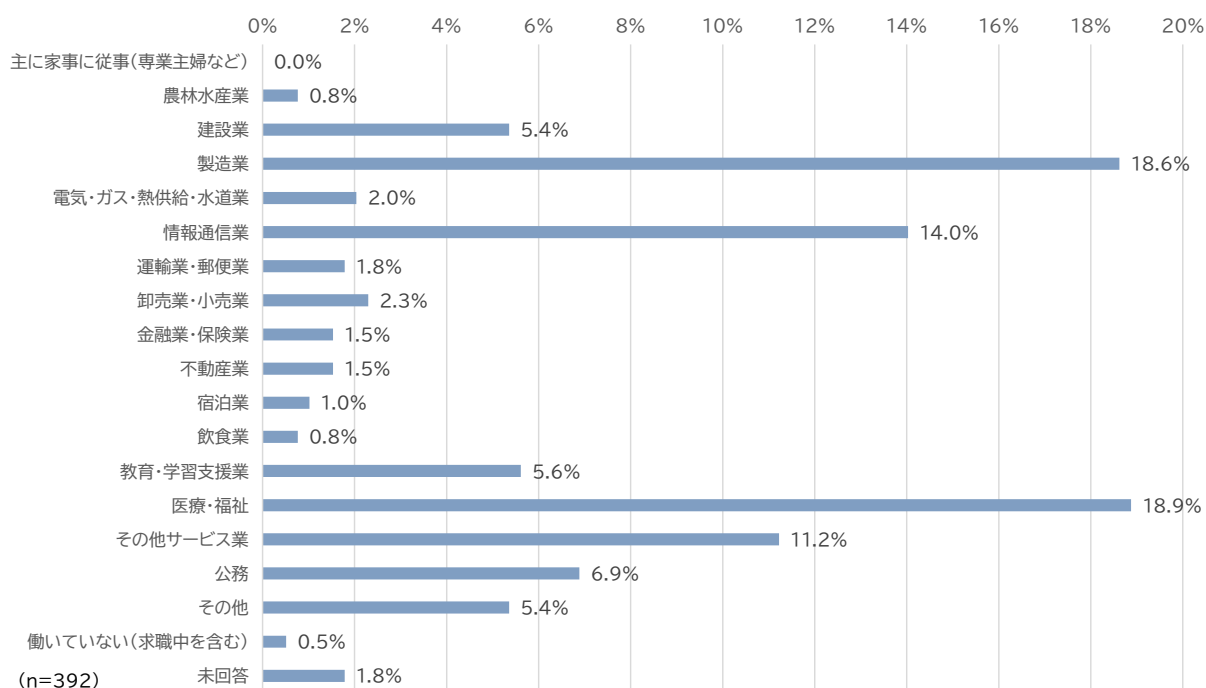


図 2-43 学生の転出後の職種(業種)

## (3)転出のきっかけが「転職」の場合の職業（業種）の変化

転出のきっかけが「転職」の場合の職業（業種）の変化をみると、転出後は、「働いていない（求職中を含む）」、「情報通信業」の割合が多い。

なお、転出前後でそれぞれ「学生」と回答した数は除外している。

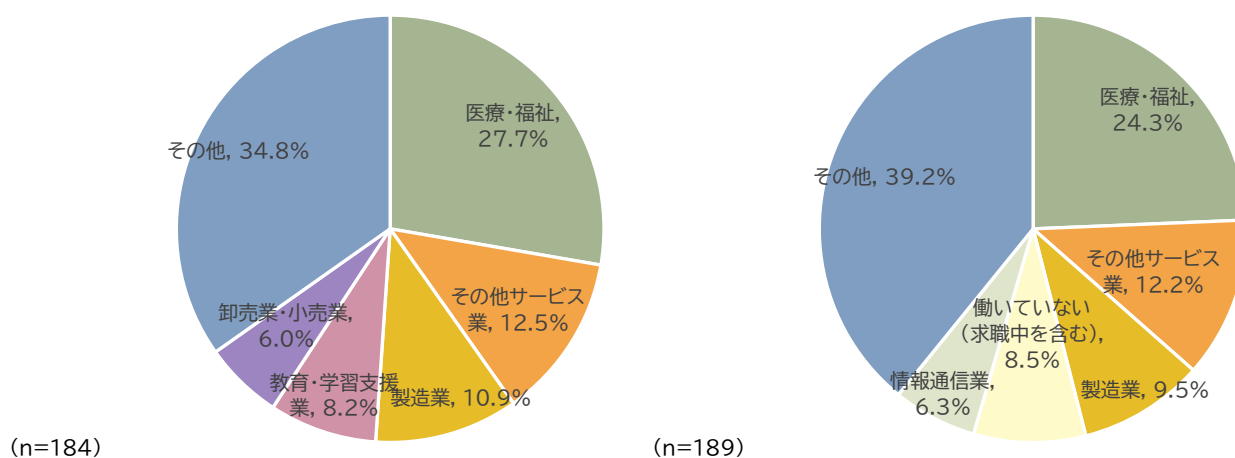


図 2-44 転職による職業(業種)の変化(左:転出前、右:転出後)



(4) 転出前の通勤・通学時間

転出前後の通勤・通学に要する時間について、転出前は「30分未満」が51.2%で最も多く、次いで、「30分以上～1時間未満」が27.4%、「1時間以上～1時間30分未満」が10.8%であった。

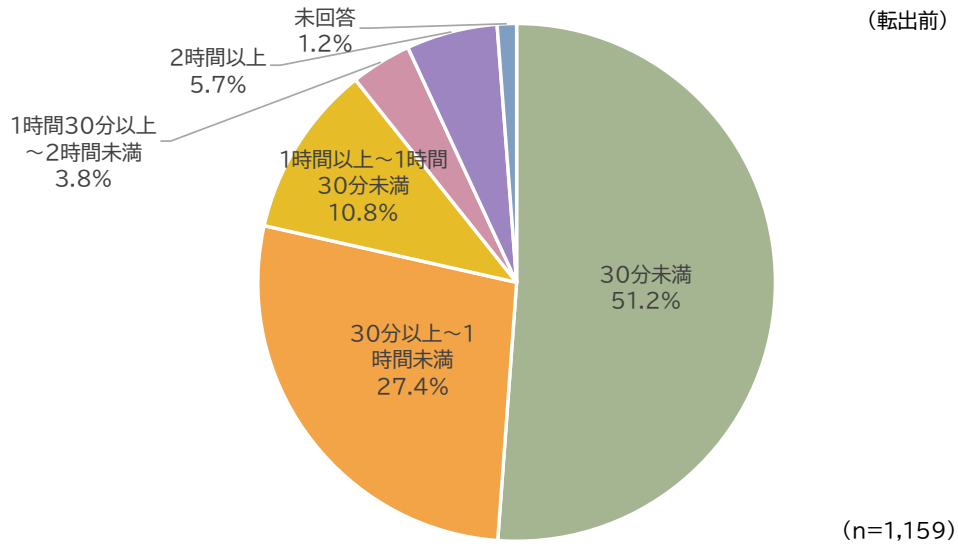


図 2-45 通勤・通学時間(転出前)

(5) 転出後の通勤・通学時間

転出後については、「30分未満」が57.6%と最も多く、次いで、「30分以上～1時間未満」が26.5%、「1時間以上～1時間30分未満」が8.3%であった。

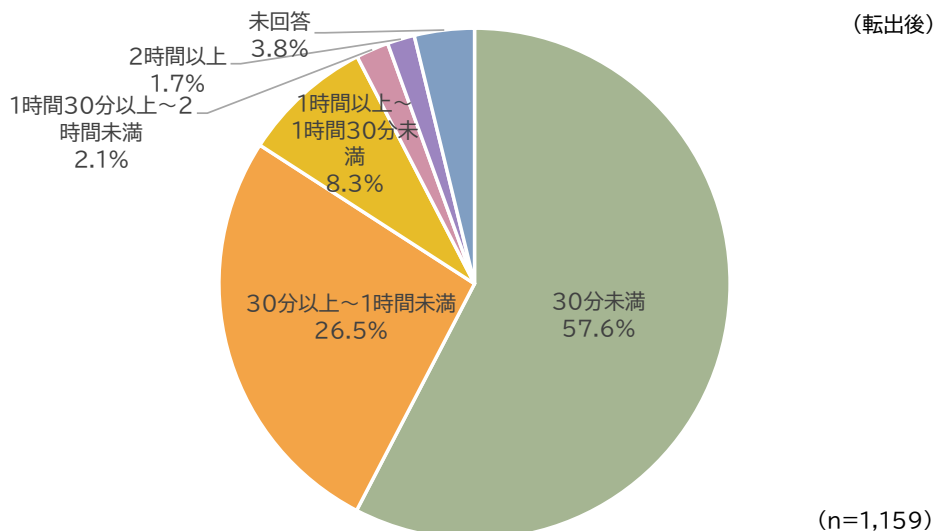


図 2-46 通勤・通学時間(転出後)

(6)世帯収入

また、現在の世帯収入を確認したところ、「200～400万円未満」が36.8%と最も多く、次いで、「400～600万円未満」が17.8%、「200万円未満」が10.5%であった。

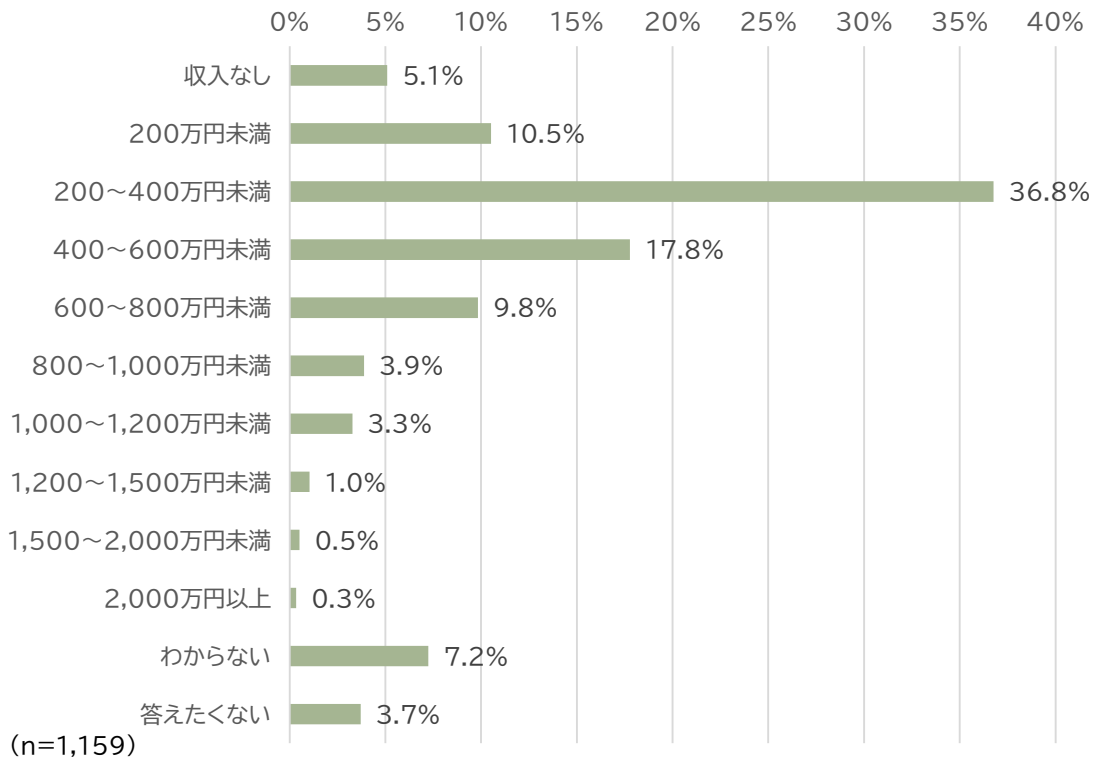


図 2-47 世帯収入

## 2.5. 北九州市への印象

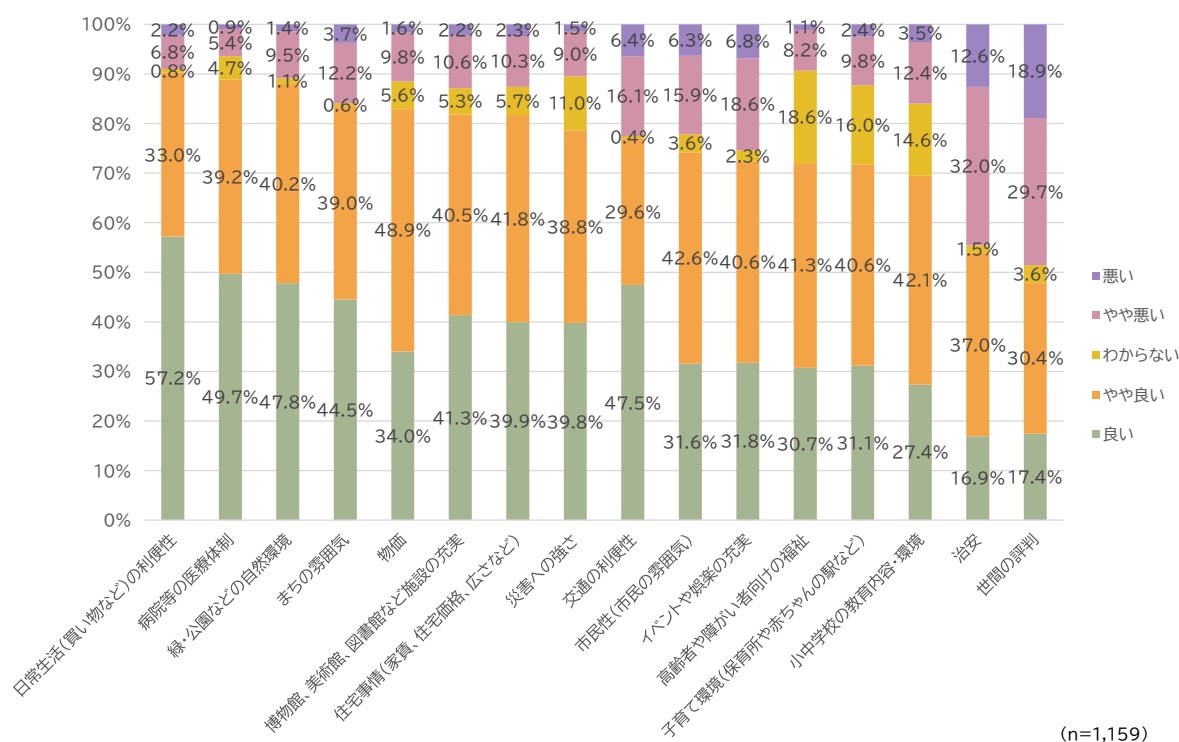
北九州市への印象を把握するために、各項目の評価（問13）、評価の低い項目については具体的な理由（問14：任意）を確認した。

### 2.5.1. 北九州市への印象

北九州市に住んでいたときの印象を、各項目で「良い、やや良い、わからない、やや悪い、悪い」の5段階での評価を行った。

「良い」と「やや良い」の合計をみると、「日常生活（買い物など）の利便性」が90.2%であった。次いで、「病院等の医療体制」が88.9%、「緑・公園などの自然環境」が88.0%であった。

一方で、「治安」は53.9%、「世間の評判」は47.8%との評価で、「悪い」と「やや悪い」との合計も、「治安」が44.6%、「世間の評判」が48.6%であった。



(n=1,159)

図 2-48 北九州市に住んでいたときの印象

男女別に「良い」と「やや良い」の合計をみると、男性は「病院等の医療体制」、「日常生活（買い物など）の利便性」、「緑・公園などの自然環境」の順に評価が高く、女性は「日常生活（買い物など）の利便性」、「緑・公園などの自然環境」、「病院等の医療体制」の順に評価が高かった。

一方で、「悪い」と「やや悪い」の合計では、男性は「治安」、「世間の評判」、「イベントや娯楽の充実」の順、女性は「世間の評判」、「治安」、「イベントや娯楽の充実」の順に評価が低かった。

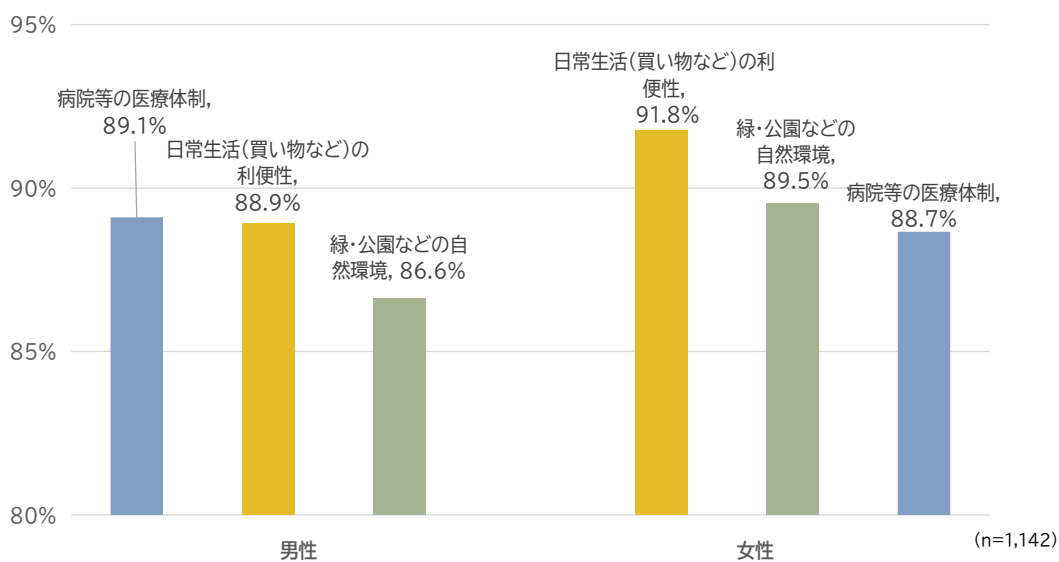


図 2-49 北九州市に住んでいたときの印象(男女別:上位3位)

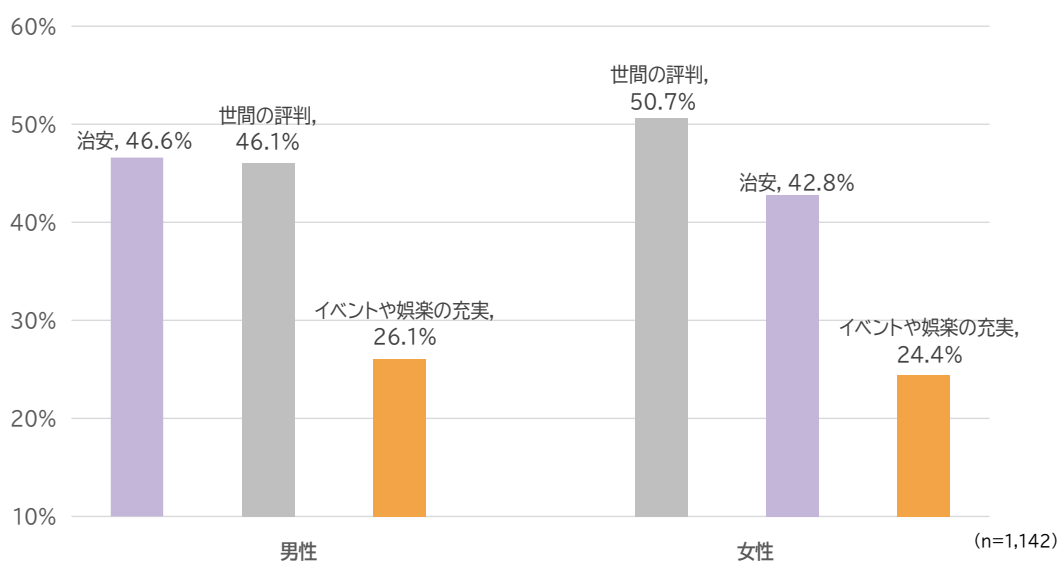


図 2-50 北九州市に住んでいたときの印象(男女別:下位3位)

年齢別に「良い」と「やや良い」の合計をみると、30～34歳以外の全ての年代で「日常生活（買い物など）の利便性」が、30～34歳では、「病院等の医療体制」が1位であった。2位、3位は、18、19歳、20～24歳、25～29歳は、「緑・公園などの自然環境」、「博物館、美術館、図書館などの施設の充実」、30～34歳は、「日常生活（買い物など）の利便性」、「緑・公園などの自然環境」、35～39歳は、「病院等の医療体制」、「緑・公園などの自然環境」であった。

一方で、「悪い」と「やや悪い」の合計では、18、19歳以外の全ての年代で「世間の評判」が、18、19歳では、「治安」が1位であった。2位は18、19歳で「世間の評判」、その他の年代で「治安」であった。3位は18、19歳、20～24歳、25～29歳は、「イベントや娯楽の充実」、30～34歳、35～39歳は、「市民性（市民の雰囲気）」であった。

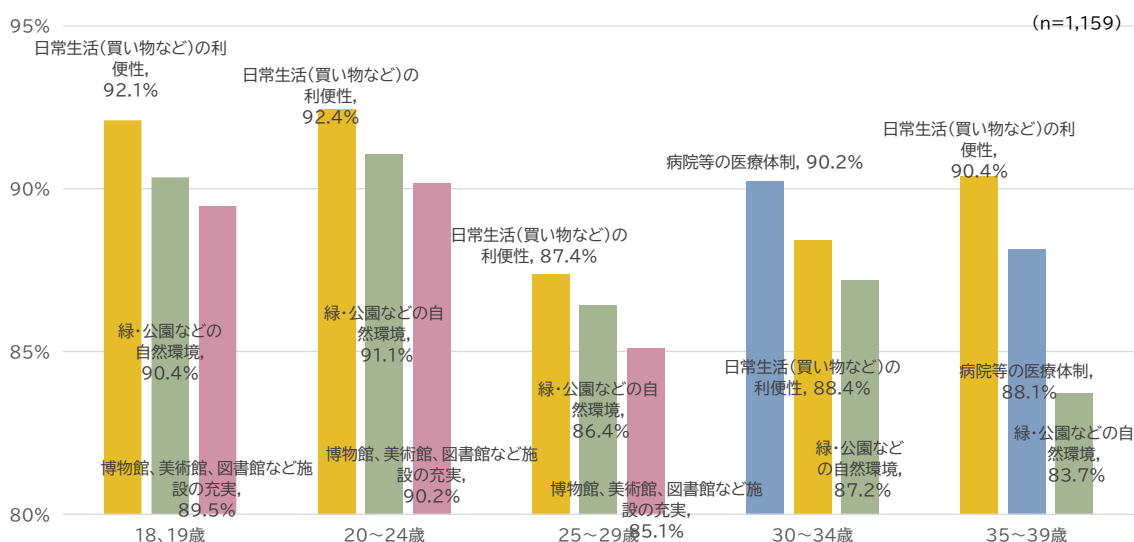


図 2-51 北九州市に住んでいたときの印象(年齢別:上位3位)

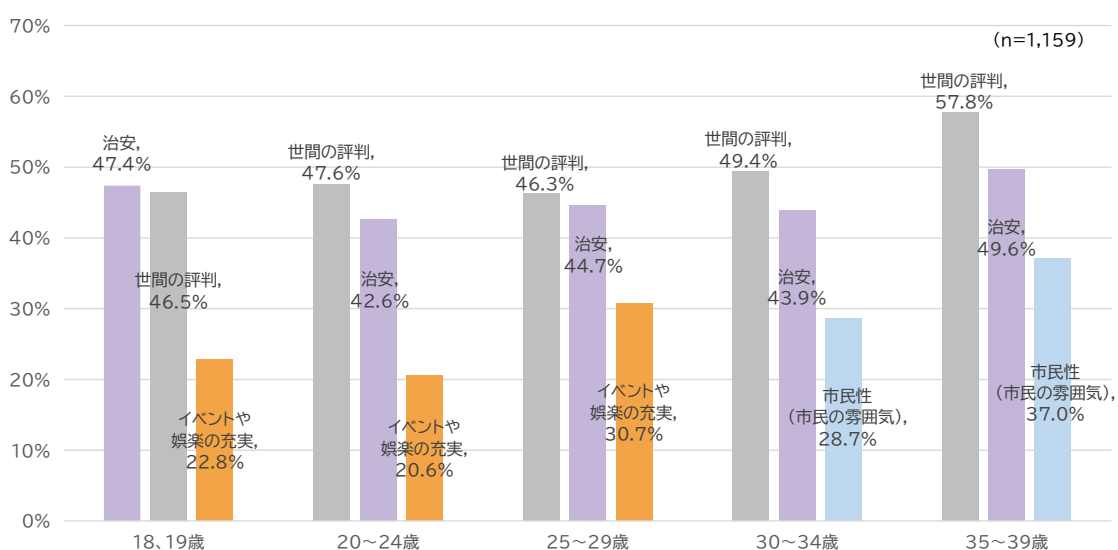
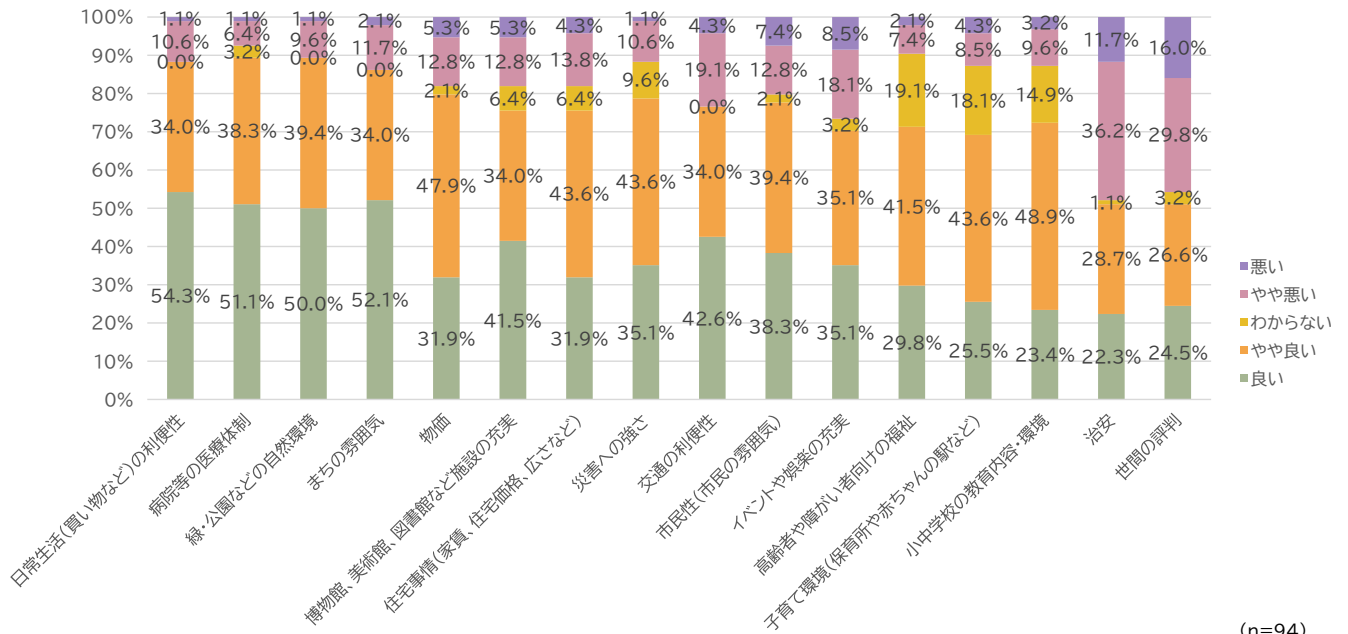


図 2-52 北九州市に住んでいたときの印象(年齢別:下位3位)

転出先の検討状況について、「北九州市を含めて探したが、他の市区町村に決めた」、「初めから、北九州市以外に住むことを決めていた」と回答した人の北九州市への印象をみると、次のとおりであった。

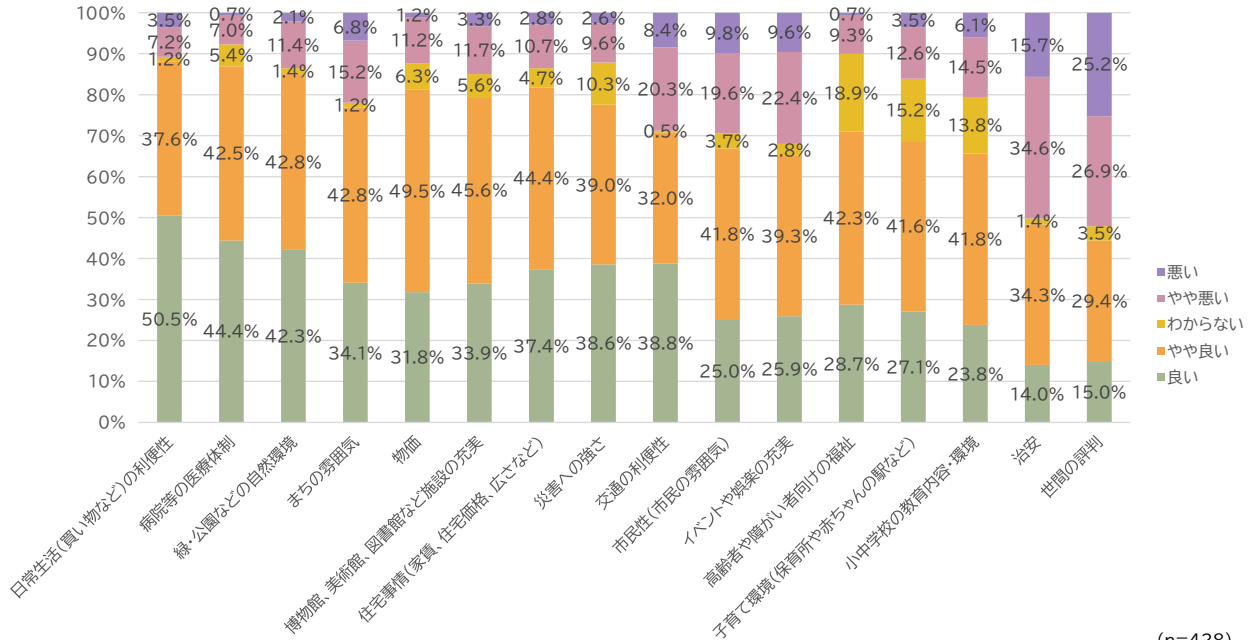
「北九州市を含めて探したが、他の市区町村に決めた」と回答した人は、全体（図 2-48）と比較して、「市民性（市民の雰囲気）」、「世間の評判」、「小中学校の教育内容・環境」などの評価が高く、「物価」、「博物館、美術館、図書館など施設の充実」、「住宅事情（家賃、住宅価格、広さなど）」などの評価が低かった。



(n=94)

図 2-53 北九州市に住んでいたときの印象  
:「北九州市を含めて探していたが、他の市区町村に決めた」を選択

「初めから、北九州市以外に住むことを決めていた」と回答した人は、全体（図 2-48）と比較して、全ての項目において評価が低く、特に「市民性（市民の雰囲気）」、「イベントや娯楽の充実」、「交通の利便性」の評価が低かった。



(n=428)

図 2-54 北九州市に住んでいた時の印象  
:「初めから、北九州市以外に住むことを決めていた」

## 2.5.2. 北九州の印象が悪いと感じる理由

北九州市に住んでいたときの印象で「やや悪い」、「悪い」と回答した項目について、任意で具体的な理由を求めた。

項目別では、「治安」が148件と最も多くの意見があった。次いで、「世間の評判」が135件であった。

表 2-2 具体的な理由の記載数

項目	問14合計	順位
まちの雰囲気	25	6
緑・公園などの自然環境	10	9
交通の利便性	64	3
日常生活（買い物など）の利便性	8	12
イベントや娯楽の充実	33	5
治安	148	1
住宅事情（家賃、住宅価格、広さなど）	13	8
病院等の医療体制	2	16
高齢者や障がい者向けの福祉	3	15
災害への強さ	7	13
物価	10	9
子育て環境（保育所や赤ちゃんの駅など）	7	13
小中学校の教育内容・環境	21	7
博物館、美術館、図書館など施設の充実	10	9
市民性（市民の雰囲気）	42	4
世間の評判	135	2

具体的な理由の記載の多かった「治安」、「世間の評判」、「交通の利便性」、「市民性（市民の雰囲気）」、「イベントや娯楽の充実」の代表的な意見は、次のとおりであった。

### 【治安】

- ・ 北九州市外の友人等に出身を伝えると、治安の悪い印象があるとよく言われる
- ・ 小倉の商店街の客引きが多い、小倉駅周辺の治安が悪い
- ・ 夜中にパトカーのサイレンやバイクの騒音などが聞こえることが度々あった
- ・ 成人式等で一部の方々が大きく取り上げられている報道を目にする
- ・ 交通マナーが悪い
- ・ ゴミが落ちている場所が多い など



### 【世間の評判】

- ・ 転出後の地域でも治安が悪いというイメージがあると言われた
- ・ 北九州に来たことがある人が少ないため、テレビなどのメディア・人からの情報から治安が悪いと思っている人が多いのだと思う
- ・ 成人式の参加者の服装・雰囲気のイメージが強い
- ・ 暴力団のイメージが未だにある
- ・ 県外に行くと修羅の国と言われる など

### 【交通の利便性】

- ・ 車を持っていないと不便。公共交通機関のみで生活することが難しい
- ・ 電車、バスの本数が少なく移動に時間がかかる
- ・ 駅に行くまでの交通機関が少ない
- ・ 北九州空港までのアクセスが悪い など

### 【市民性(市民の雰囲気)】

- ・ 地元住民の結束力が強く溶け込みづらい
- ・ 車、自転車のマナーが悪い
- ・ 夜間に若者が騒いでいる など

### 【イベントや娯楽の充実】

- ・ イベント、娯楽施設が少ない
- ・ 福岡県でイベントがある時は、基本的に博多の方（福岡市）なので、北九州市から行かないといけない
- ・ 首都圏に比べると、娯楽の多さにおいて見劣りする など